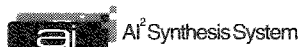


# KORG CONCERT

KORG DIGITAL PIANO



お買い上げいただきありがとうございます。  
本製品を末永くご愛用いただくためにもこの  
取扱説明書をよくお読みになって、正しい方  
法でご使用ください。

## C-350    PC I/F C-150 取扱説明書

### 目次

安全上のご注意 .....	2
バックアップバッテリーについて .....	3
データについて .....	3
おもな特長 .....	3
はじめに .....	4
1. C-350各部の名称 .....	4
2. C-150各部の名称 .....	6
3. 演奏するための準備 .....	8
電源コードを差し込みます .....	8
キーカバーを開けます (C-350のみ) .....	8
電源をオンします .....	8
音量を調節します .....	8
ヘッドホンを使うときは .....	8
譜面立てを使うときは .....	8
4. デモ演奏を聴いてみましょう .....	9
弾いてみましょう .....	10
1. 音色を選びます .....	10
2. [音色セレクター]で選んだ音色の明るさを調節したり 残響や広がり感を加えます (C-350のみ) .....	10
3. ペダルを使います .....	11
4. メトロノームに合わせて演奏します .....	12
5. 鍵盤のタッチ感を変えます .....	13
6. 弾きやすく、歌いやすくします (移調) .....	14
7. 音程のずれを微調整します .....	14
8. 音律を選びます .....	15
演奏を録音・再生してみましょう .....	16
1. 演奏を録音します .....	16
2. 録音した演奏を再生します .....	16
3. 演奏データを消去します .....	17
4. あとどれくらい録音できるか知りたいときは .....	17
他の機器との接続 .....	18
1. オーディオ機器やシンセサイザーとの接続 .....	18
2. MIDI機器との接続 .....	18
3. コンピュータとの接続 (C-350のみ) .....	21
資 料 .....	24
1. KORG MIDI Driverのインストールと セットアップ .....	24
2. スタンドの組み立て方 .....	30
3. MIDIインプリメンテーションチャート .....	32
4. 故障とお思いになる前に .....	33
5. 仕 様 .....	33
6. 索 引 .....	34
7. スイッチの機能 .....	35
アフターサービス .....	

はじめに

弾いてみましょう

演奏を録音・再生  
してみましょう


他の機器との接  
続

資 料

## 安全上のご注意

### WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.

	<b>CAUTION</b> RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN	
<b>AVIS: RISQUE DE CHOC ÉLECTRIQUE—NE PAS OUVRIR.</b>		
<b>注意</b> 感電の恐れあり、キャビネットをあけるな		
CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT REMOVE COVER (OR BACK). NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.		

マークについて

この機器に表示されているマークには、次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは、注意喚起シンボルであり取扱説明書などに、一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには以下の指示を守ってください。

ピアノはご家庭の中で身近に置かれ、お子様から専門家の方まで幅広くご愛用いただくものです。

ピアノは大きくて重いものですので、室内での置き場所や日常の取り扱いについて、安全にご使用いただくための注意をお願いします。小さなお子様には、最初にご家族の方から教えてあげてください。

## 警告



本製品を使用する前に、以下の指示をよく読んでください。

電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。

設置は水平で平らな床面に行なってください。

本製品を移動する時に引きずって行なうと床面を傷付けるばかりでなく、思わぬ事故を起こしかねません。必ず2人以上で持ち上げて移動してください。

次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜いて、コルグ営業所、またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。

- 電源コードやプラグが破損したとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたとき
- 製品が(雨などで)濡れたとき
- 製品に異常や故障が生じたとき



次のような場所での使用や保存はしないでください。

- 湿度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など：外装等の変形や火災の原因になります。）
- 水気の近く(風呂場、洗面台、濡れた床など)や湿度の高い場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



本製品はキーカバーまたは譜面立ての開閉時に指や手を挟みこむ恐れがありますので、十分注意してください。



修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対に行しないでください。必ず最寄りのコルグ営業所またはコルグ営業技術課に相談してください。

本製品の上に上がったり、下にもぐり込んだりして遊ばないでください。

本製品の上に物を置かないでください。落ちると危険です。

本体に前後方向から無理な力を加えないでください。転倒の危険性があります。

地震の時はピアノに近づかないでください。

電源コードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。電源コードに傷がつき危険です。

本製品を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快を感じる音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。



本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対にいれないでください。

この機器を分解したり、改造したりしないでください。



付属のスタンドは「スタンドの組み立て方」(※p.30)に従って必ずピアノ本体を設置のうえ、使用してください。その際、必ずペダルコネクターをPEDAL端子に差し込んでください。

付属のスタンドは長い時間が経つとスタンドのネジが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときには、安全のため「スタンドの組み立て方」に従って、ネジを締め直してください。

本製品を移動するときはピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「スタンドの組み立て方」(※p.30)に従い、スタンドのネジの締め直しと再設置を行ってください。

付属の椅子はピアノの演奏用のみに使用してください。椅子で遊んだり、踏台にすると転倒したり壊れたりして危険です。

付属の椅子は一人用です。二人以上で腰掛けしないでください。



付属の椅子の高さ調節は椅子から降りて確実に行ってください。腰掛けのまま行なうと手を挟むことなどが危険です。

## 注意



本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このためラジオやテレビなどを接近して同時に使用すると、それらに雑音が入ることがあります。逆にラジオ、テレビ、その他の電子機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。ラジオ、テレビ、その他の電子機器などからは充分に離してご使用ください。

他の電気機器の電源コードといっしょのタコ足配線は危険です。本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

スイッチやツマミに必要以上の力を加えると故障の原因となりますので注意してください。



長時間使用しない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。



外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対に使用しないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

製品をお買い上げいただいた日より一年間は、保証期間となり、修理は無償となりますが、保証書に購入店での手続きがない場合は無効になります。保証書は必ずお求めになった販売店で所定の手続きを行った後、大切に保管してください。

今後の参照のために、この取扱説明書はお読みになった後も大切に保管してください。



電源コードをコンセントに抜き差しするときは、必ず電源プラグを持ってください。

## バックアップバッテリーについて

本製品は、電源オフ後にメモリーの内容が消滅するのを防ぐために、バックアップ用のバッテリーを装備しています。電源オン時に[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチのランプが点滅しましたらバッテリーを交換する必要があります。最寄りのコルグ製品取扱店または(株)コルグ営業技術課にお問い合わせください。

[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押すと点滅は解除されます。

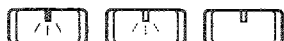
## データについて

万一異常な動作をしたときに、メモリーの内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータは外部のデータファイラー(記憶装置)等にセーブしておいてください(※p.20)。また、データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

## 取扱説明書の表記について

### スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[ ]で括弧しています。  
スイッチランプの点灯、点滅、消灯は次のように表します。



点灯

点滅

消灯



: 操作の手順を表します。



: 使用上の注意を表します。

(※p.■)

: 参照ページを表します。



: 設定した内容の記憶に関する記述を表します。

## おもな特長

### 多彩な音色 ..... (※p.10)

コンサートグランドピアノをはじめコルグ独自のai(advanced intergrated)スクエアシンセシスシステムによる豊かな表現力を生む高品位な6種類の音色を内蔵しています。

レイヤー・モードでは、同時に2つの音色を組み合わせで演奏することができます。

### エフェクト機能(C-350のみ) ..... (※p.10)

コンサートホールで演奏しているような響きや音にうねりを与え広がりのある豊かな響きにするデジタルエフェクトを内蔵しています。

### ペダル効果 ..... (※p.11)

アコースティックピアノと同じようにダンパー効果、ソステヌート効果、ソフト効果の3機能があります。C-350ではダンパーペダルがアコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴効果を再現します。

### メトロノーム機能 ..... (※p.12)

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

### レコーダー機能 ..... (※p.16)

テープレコーダーを操作する感覚で自分の演奏をそのまま録音・再生できるレコーダーを内蔵しています。

### タッチコントロール機能 ..... (※p.13)

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを3種類の中から選択できます。

### 音律 ..... (※p.15)

平均律の他に、2種類の古典音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)を選択することによって古典音楽等の再現も可能になります。

### 音程の調節 ..... (※p.14)

トランスポーズ機能により移調を、ピッチコントロール機能により音程の微調整をおこなうことができます。

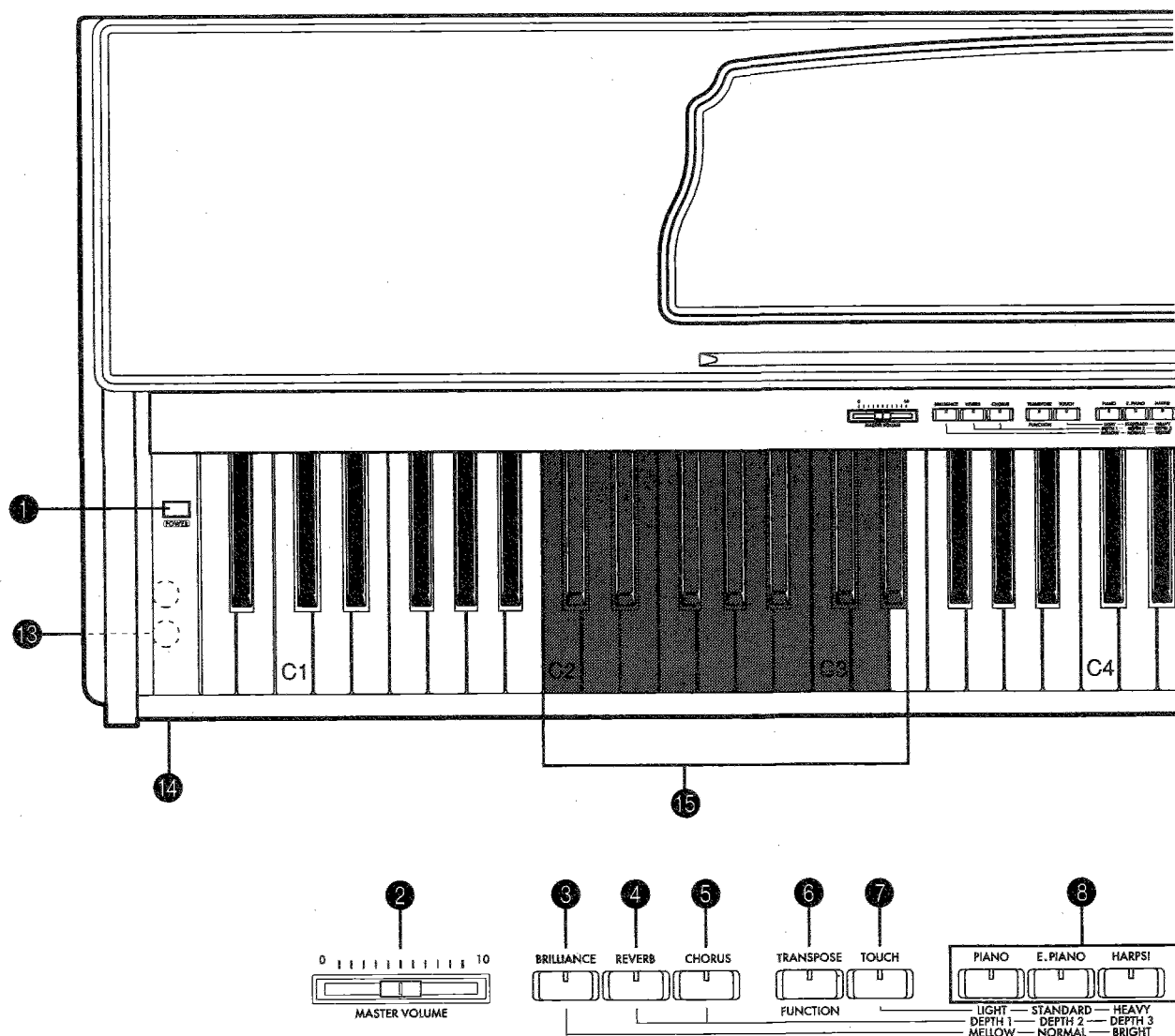
### MIDIの装備 ..... (※p.18)

電子楽器やコンピュータの間で、演奏情報のやりとりをおこなう統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使えば接続した機器間で相互にコントロールしあうことができ、本機を4パートマルチティンバー音源としても使用することができます。

### ピアノを楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。時間帯によって音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

# 1. C-350各部の名称



## ① [POWER] (パワー) スイッチ

電源をオン/オフします。押すたびにオン/オフが切り替わります(※p.8)。

## ② [MASTER VOLUME] (マスターボリューム) スライダー

音量を調節します(※p.8)。

## ③ [BRILLIANCE] (ブリリアンス) スイッチ

音の明るさを調節します(※p.10)。

## ④ [REVERB] (リバーブ) スイッチ

音に残響を加えるスイッチです(※p.10)。

## ⑤ [CHORUS] (コーラス) スイッチ

音に広がりを加えるスイッチです(※p.11)。

## ⑥ [TRANSPOSE/FUNCTION] (トランスポーズ/ファンクション) スイッチ

MIDIに関する設定(※p.19)や、移調するときに使います(※p.14)。この他さまざまな設定にも使用します。

## ⑦ [TOUCH] (タッチ) スイッチ

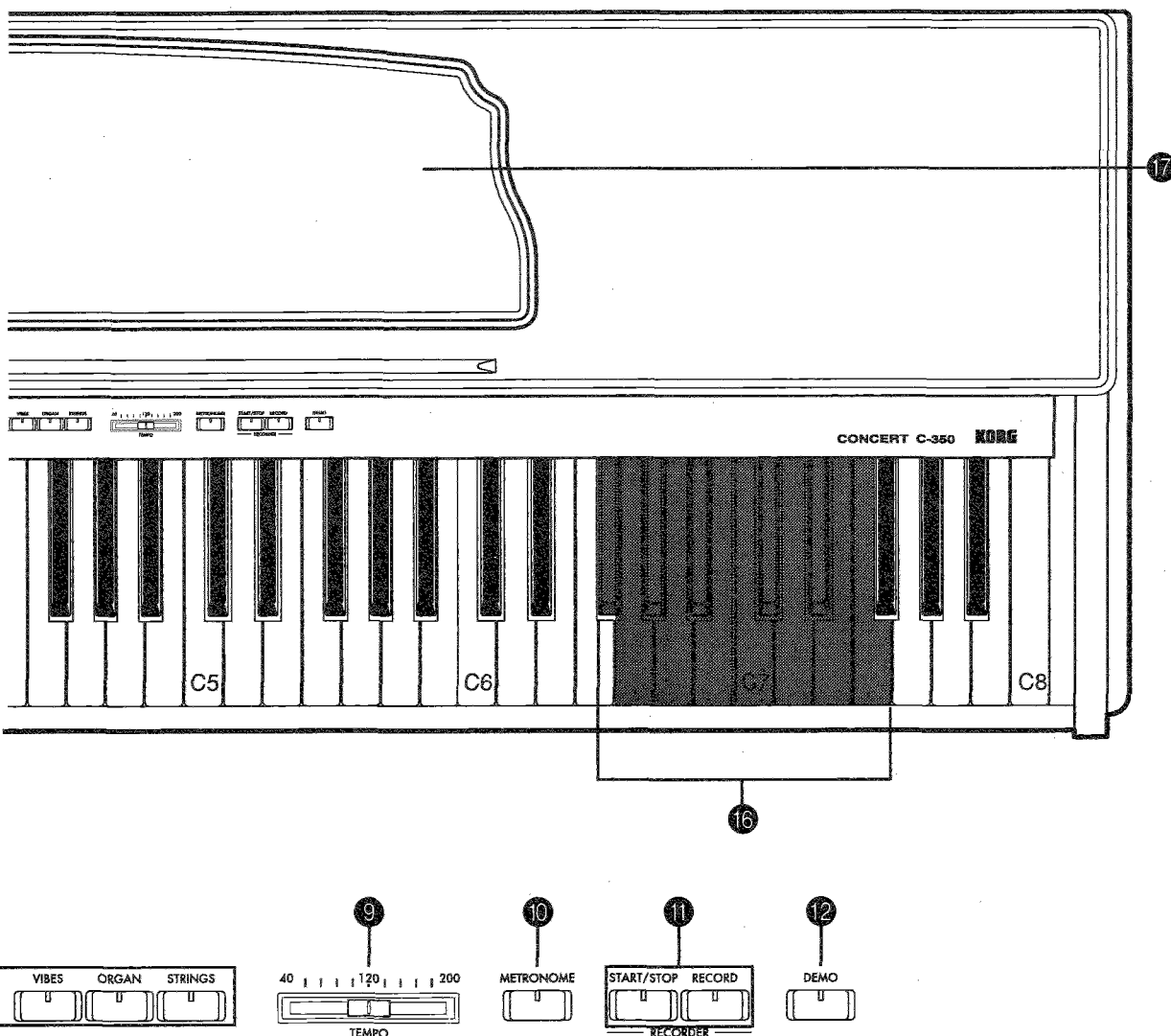
鍵盤タッチによる音量変化の度合いを設定するスイッチです(※p.13)。

## ⑧ [音色セレクトター]

音色を選びます(※p.10)。同時に2つの音色で演奏(レイヤーモード)することもできます。

## ⑨ [TEMPO] (テンポ) スライダー

メトロノーム、レコーダーのテンポを調節します(※p.12)。



⑨ [METRONOME] (メトロノーム) スイッチ  
メトロノームをスタート/ストップします (☞p.12)。

⑩ RECORDER (レコーダー) 操作部  
演奏を録音/再生します (☞p.16)。

⑪ [DEMO] (デモ) スイッチ  
デモ曲を演奏します (☞p.9)。

⑫ PHONES 端子 (本体下側にあります。)  
ステレオヘッドホンを接続します (☞p.8)。

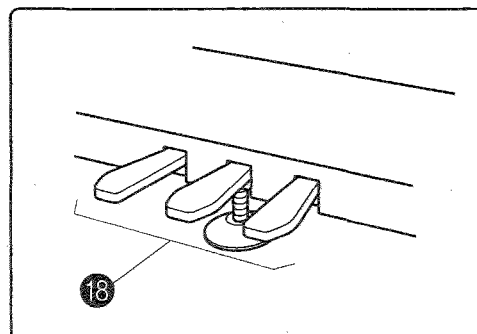
⑬ POWER ランプ

⑭ MIDI チャンネル用鍵盤  
MIDI チャンネルを設定します (☞p.19)。

⑮ トランスポーズ用鍵盤  
トランスポーズ (移調) をします (☞p.14)。

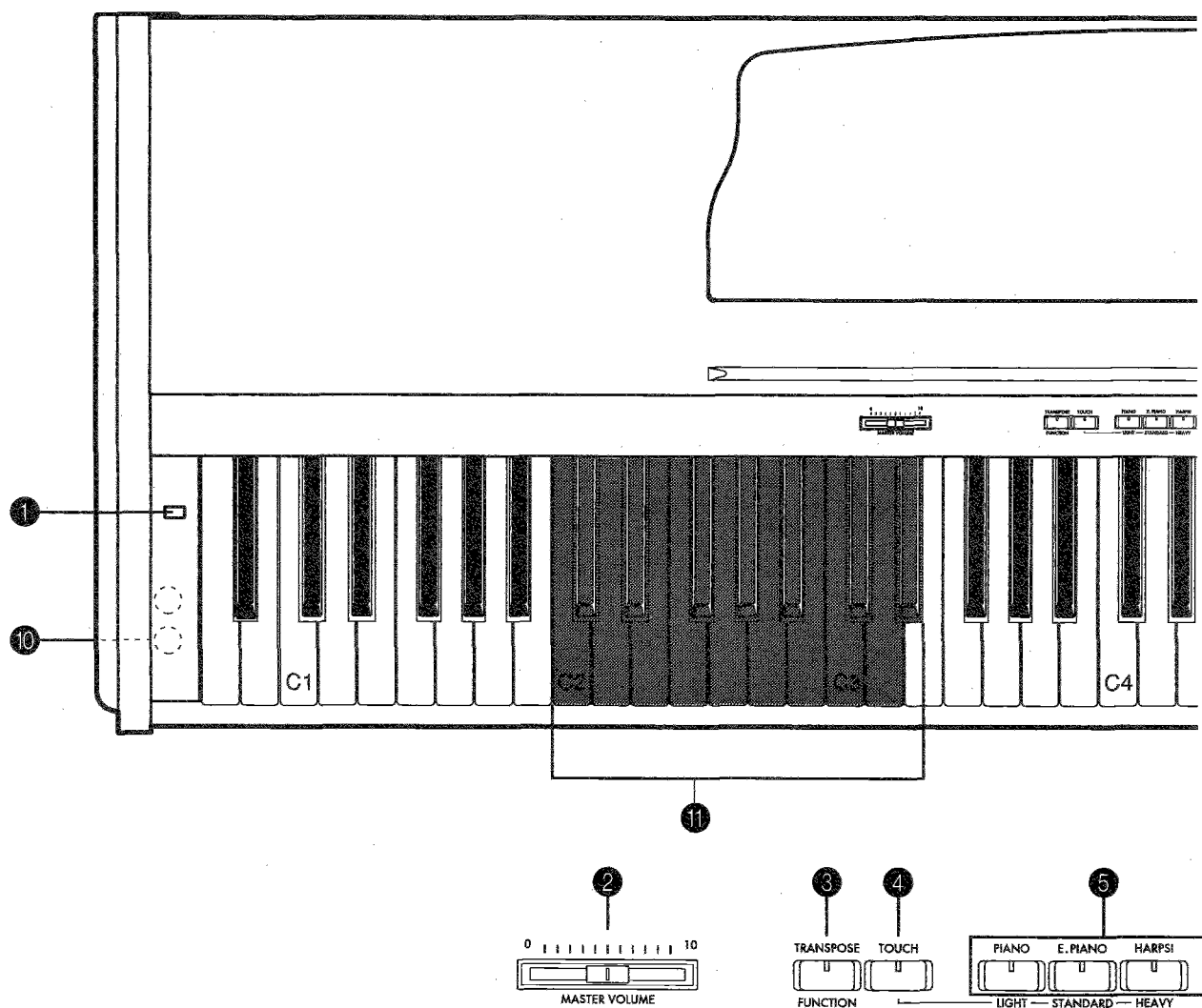
⑯ 譜面立て (☞p.8)

⑰ ペダル (☞p.11)



リアパネルの説明は18ページをご覧ください。

## 2 C-150各部の名称



### ① [POWER] (パワー) スイッチ

電源をオン/オフします。押すたびにオン/オフが切り替わります(☞p.8)。

### ② [MASTER VOLUME] (マスターボリューム) スライダー

音量を調節します(☞p.8)。

### ③ [TRANPOSE/FUNCTION] (トランスポーズ/ファンクション) スイッチ

MIDIに関する設定(☞p.19)や、移調するときに使います(☞p.14)。その他さまざまな設定にも使用します。

### ④ [TOUCH] (タッチ) スイッチ

鍵盤タッチによる音量変化の度合いを設定するスイッチです(☞p.13)。

### ⑤ [音色セレクター]

音色を選びます(☞p.10)。

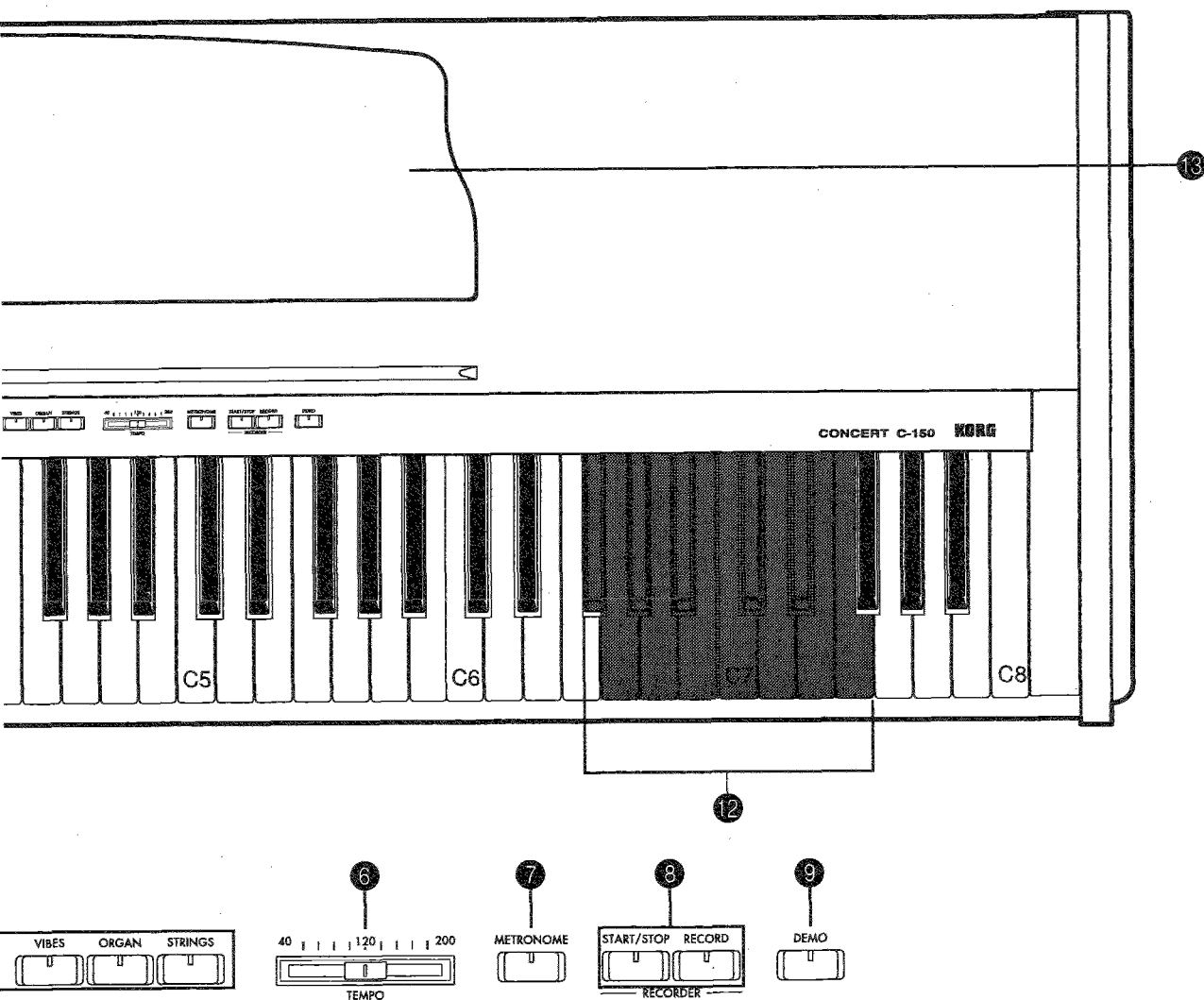
同時に2つの音色で演奏(レイヤーモード)することもできます。

### ⑥ [TEMPO] (テンポ) スライダー

メトロノーム、レコーダーのテンポを調節します(☞p.12)。

### ⑦ [METRONOME] (メトロノーム) スイッチ

メトロノームをスタート/ストップします(☞p.12)。



⑧ **RECORDER**(レコーダー)操作部  
演奏を録音/再生します(※p.16)。

⑨ **[DEMO]**(デモ)スイッチ  
デモ曲を演奏します(※p.9)。

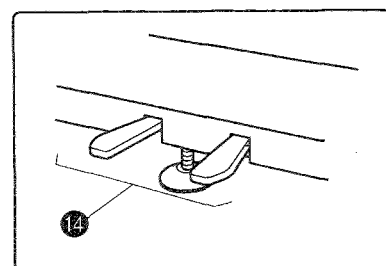
⑩ **PHONES**端子(本体下側にあります。)  
ステレオヘッドホンを接続します(※p.8)。

⑪ **MIDI**チャンネル用鍵盤  
MIDIチャンネルを設定します(※p.19)。

⑫ **トランスポーズ**用鍵盤  
トランスポーズ(移調)をします(※p.14)。

⑬ 譜面立て(※p.8)

⑭ ペダル(※p.11)

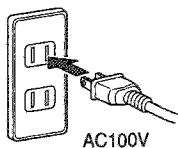


リアパネルの説明は18ページをご覧ください。

### 3. 演奏するための準備

#### ① 電源コードを差し込みます

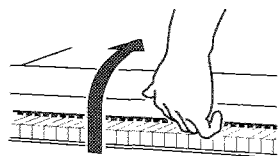
電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。  
必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでください。



#### ② キーカバーを開けます (C-350のみ)

ヘリの中央部分を軽く持ち上げて支えながら、静かに奥の方へスライドさせます。

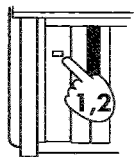
キーカバーを開けるときは、ヘリの中央部分を軽く持ち、前方へスライドさせます。



- ⚠ 開閉中は指や手を挟まないように十分注意してください。
- ⚠ 無理な力を加えたり、乱暴に開閉すると故障の原因になることがあります。
- ⚠ キーカバーを開閉するときは、キーカバーの上に紙やコインがないことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。

#### ③ 電源をオンにします

[POWER]スイッチを押して、電源をオンにします。



電源をオンにすると、正面左側にあるPOWERランプが点灯します (C-350のみ)。

#### ② 電源をオフにします

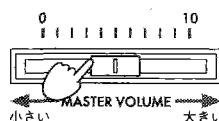
電源をオフにするときはもう一度[POWER]スイッチを押します。

電源をオフにすると、正面左側にあるPOWERランプが消灯します (C-350のみ)。

#### ④ 音量を調節します

[MASTER VOLUME]スライダーを中程まで上げておきます。

スライダーを右に動かすと音量が大きくなり、左に動かすと音量が小さくなります。"0"の位置では音が出ません。実際に弾きながら適度な音量に調節してください。

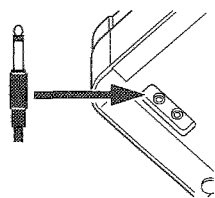


[MASTER VOLUME]スライダーは、本体のスピーカーとPHONES端子、リアパネルのOUTPUT端子から出力される音量をコントロールします。

#### ■ ヘッドホンを使うときは

ヘッドホン差し込むと本体のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときはヘッドホンをお使いください。ヘッドホン端子は2つありますので、お二人で演奏を楽しむことができます。

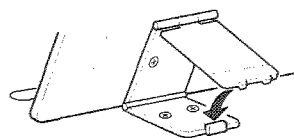
本体左下側にあるPHONES端子に、ステレオヘッドホンのプラグを差し込みます。



- ⚠ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量のまま長い時間きかないでください。

#### ■ 譜面立てを使うときは

譜面立てを起し、裏面についている2つのストッパーを使って倒れないようにします。





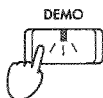
## 4. デモ演奏を聴いてみましょう

デモ演奏をバンクAに6曲、バンクBに6曲、全12曲を内蔵しています。デモ演奏を聴いて豊かな音色とその表現力を確認してください。

### デモモードに入ります

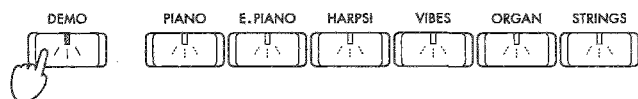
- 1 [DEMO]スイッチを押します。  
[音色セクター]のランプが"順番に点灯→全部点灯"を繰り返し、デモモードのバンクAになります。

バンクAを演奏するときは、操作3にすすんでください。



### バンクBに切り替えます

- 2 [DEMO]スイッチを押します。  
[音色セクター]のすべてのランプが点滅し、バンクBに切り替わります。  
バンクBからもう一度[DEMO]スイッチを押すと、デモモードから抜けます。



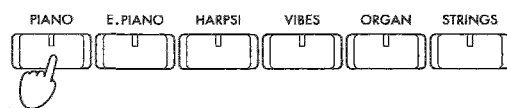
- 4 デモ演奏中は[音色セクター]で音色を変更することはできません。また、メトロノーム機能やテンポの調整もできません。

### 演奏させます

- 3 [音色セクター]を押します。  
[音色セクター]を押すと、下の表に対応した曲目を演奏します。演奏が終了すると、次の曲を演奏します。  
[音色セクター]で演奏させたときは、選んだバンク内の曲が順番に演奏を繰り返します(エンドレスで演奏します)。

### デモ曲

	音色セクター	バンクA	バンクB
1曲目	PIANO	F.ショパン/スケルツォ 第2番 変ロ短調 Op.31	L.v.ベートーヴェン/エリーゼのために
2曲目	E.PIANO	KORGオリジナル/The Harp of Wind	F.メンデルスゾーン/春の歌 Op.62-6~無言歌集第6巻より
3曲目	HARPSI	J.S.バッハ/イタリア協奏曲 BWV971	F.ショパン/ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬」 Op.64-1
4曲目	VIBES	N.リムスキー=コルサコフ/熊蜂の飛行	W.A.モーツァルト/ソナタ K.331 第3楽章「トルコ行進曲」
5曲目	ORGAN	F.メンデルスゾーン/ウェディング・マーチ	F.ブルグミュラー/ブルグミュラー25のやさしい練習曲より「貴婦人の乗馬」
6曲目	STRINGS	J.S.バッハ/G線上のアリア	A.エルメンライヒ/紡ぎ歌

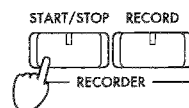


曲を選ぶときに押します。

[START/STOP]スイッチを押します。

バンクAの1曲目から順番に演奏を繰り返します。

[START/STOP]スイッチで演奏させたときは、バンクA、Bの12曲が順番に演奏を繰り返します(エンドレスで演奏します)。



また、[START/STOP]スイッチでの演奏中に[音色セクター]を押すと、そのときに演奏している曲のバンク内での繰り返し演奏(エンドレス演奏)に切り替わります。例えば、バンクAの1曲目を演奏中に[STRINGS]の[音色セクター]を押すと、バンクAの6曲目が演奏され、以後バンクAの1曲目から順番に演奏を繰り返します(エンドレスで演奏します)。

### 演奏を終了します

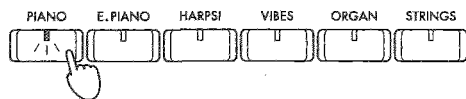
- 4 演奏している曲の[音色セクター]が[START/STOP]スイッチを押します。  
演奏を終了すると、演奏前のバンク表示の状態に戻ります。

### デモモードから抜けます

- 5 バンクAのときは[DEMO]スイッチを2回押します。  
バンクBのときは[DEMO]スイッチを1回押します。  
演奏途中で[DEMO]スイッチを押すと、演奏が終了しデモモードから抜けます。

# 1. 音色を選びます

[音色セレクトター]を押して、弾きたい音色を選びます(音色の内容については下の表をご覧ください)。選んだ[音色セレクトター]のランプが点灯し、その音色で演奏することができます。



PIANO	明るく華やかに響くアコースティックピアノの音
E.PIANO	軽やかで透明感のあるエレクトリックピアノの音
HARPSI	クラシックな趣きのあるリアルなハープシコードの音
VIBES	まろやかなビブラフォンの音
ORGAN	荘厳なパイプオルガンの音
STRINGS	バイオリンなどの弦楽器によるアンサンブルの音

Sounds processed with INFINITY™



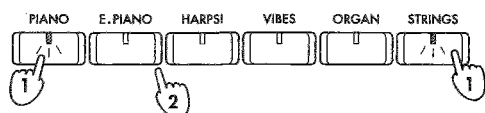
## 異なる2種類の音色を組み合わせて演奏するには

本機には、一つの音色だけが鳴るシングルモードと異なる2つの音色が同時に鳴るレイヤーモードの2つのモードがあります。

### レイヤーモードにするには

組み合わせたい2つの[音色セレクトター]を同時に押します。

選んだ2つの[音色セレクトター]のランプが点灯します。同時発音数は16音(PIANOの音色を選んでいるときは10音)になります。

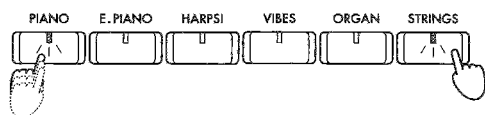


## 2 [音色セレクトター]を一つだけ押すとシングルモードになり、レイヤーモードが解除されます。

## レイヤーモードでの2つの音色の音量バランスの変更

音量を小さくしたいほうの[音色セレクトター]を押しながら、音量を大きくしたい[音色セレクトター]を繰り返し押します。

繰り返し押している[音色セレクトター]の音色の音量が大きくなります。

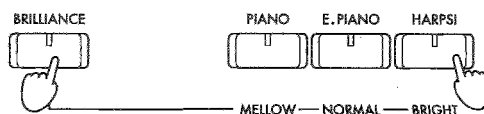


音量バランスは、レイヤーモードを解除したあとや電源をオフにしたあとも記憶されます。

# 2 [音色セレクトター]で選んだ音色の明るさを調節したり、残響や広がり感を加えます(C-350のみ)

## 音の明るさを調節します

[BRILLIANCE]スイッチを押しながら[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セレクトター]のうち、いずれかを押して音の明るさを選べます。



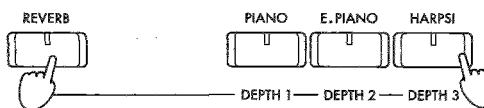
PIANO	MELLOW-やわらかい音色になります
E.PIANO	NORMAL-"MELLOW"または"BRIGHT"の設定が解除され、通常の音色に戻ります
HARPSI	BRIGHT-明るめの音色になります

[BRILLIANCE]スイッチを押し続けると、その間[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セレクトター]のうち、いずれかのランプが点灯して、現在選ばれている音の明るさを表示します。

## 音に残響を加えます

[音色セレクトター]で選んだ音色に残響と深みを加え、コンサートホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。これをリバーブ効果といいます。

[REVERB]スイッチを押しながら[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セレクトター]のうち、いずれかを押して深さを選びます。



PIANO	DEPTH1	DEPTH1でリバーブ効果がかかります
E.PIANO	DEPTH2	DEPTH2, DEPTH3を選ぶに従って
HARPSI	DEPTH3	より深く効果がかけられます

[REVERB]スイッチを押し続けると、その間[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セレクトター]のうち、いずれかのランプが点灯して現在選ばれているリバーブの深さを表示します。

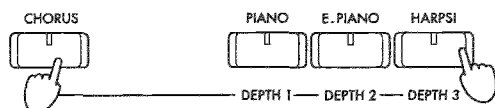
リバーブ効果をかけない場合は、[REVERB]スイッチを押して[REVERB]スイッチのランプを消灯させます。

[PIANO]の音色で[REVERB]の設定がオフのとき、アコースティックピアノの弦の響きをシミュレートした共鳴音を再現することができます。

## ■ 音に広がりを加えます

[音色セレクトター]で選んだ音色にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。これをコーラス効果といいます。

[CHORUS]スイッチを押しながら[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セレクトター]のうち、いずれかを押してコーラスの深さを選びます。



PIANO	DEPTH1	DEPTH1でコーラス効果がかかります
E.PIANO	DEPTH2	DEPTH2, DEPTH3を選ぶに従って
HARPSI	DEPTH3	より深く効果がかかります

[CHORUS]スイッチを押し続けると、その間[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セレクトター]のうち、いずれかのランプが点灯して、現在選ばれているコーラスの深さを表示します。

コーラス効果をかけない場合は、[CHORUS]スイッチを押して[CHORUS]スイッチのランプを消灯させます。

㊦ **BRILLIANCE, REVERB, CHORUS**は、音色ごとに設定することができます。以後その[音色セレクトター]を選ぶたびに自動的に同じ設定になります。

㊦ 各音色で設定した**REVERB, CHORUS**のオン/オフとその深さ(**DEPTH**)、**BRILLIANCE**の音の明るさは、電源をオフにした後も記憶されます。

## 3. ペダルを使います

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能があります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。

### ■ C-350

#### ダンパーペダル

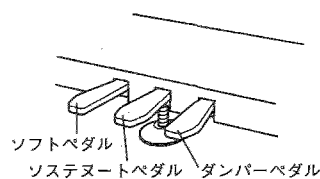
ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。

#### ソフトペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。

#### ソステヌートペダル

任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだとき



に押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはソステヌート効果はかかりません。

### ■ C-150

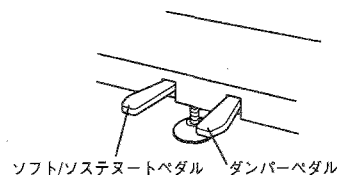
#### ダンパーペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。

#### ソフト/ソステヌートペダル

C-150では左側のソフト/ソステヌートペダルをソフト効果がソステヌート効果に切り替えて使います(※p.12)。ソフト効果にしたときは、ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。

ソステヌート効果にしたときは、任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはソステヌート効果はかかりません。

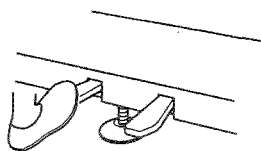
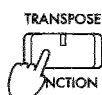


## ソフト効果とソステヌート効果の切り替え(C-150のみ)

出荷時の設定はソフト効果になっています。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながらソフト/ソステヌート・ペダルを踏みます。

踏むたびにソフト効果とソステヌート効果が切り替わります。



現在どちらの設定になっているかの表示はしないので、切り替えるたびに効果を確認してください。

- ソフト/ソステヌート効果の設定は、電源をオフにしたあとも記憶されます。

## レイヤーにおけるペダルの設定

レイヤーモードにおいて、ダンパーペダルの効果を二つの音色のどちらにかけるかを設定します。

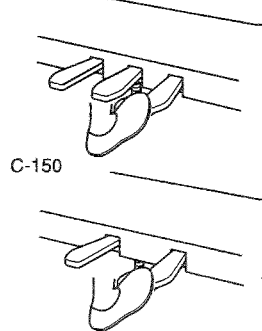
[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながらダンパーペダルを踏みます。

ダンパーペダルの効果がかかる[音色セクター]のランプが点灯します。



C-350

C-150



ダンパーペダルを踏むたびに、"一方の[音色セクター]"→"もう一方の[音色セクター]"→"両方の[音色セクター]"の順番で効果のかかり方が切り替わります。

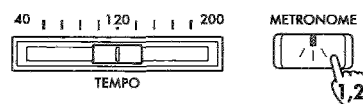
## 4. メトロノームに合わせて演奏します

正確なテンポに合わせて演奏するときにメトロノームを使うと便利です。このメトロノームは、演奏を録音するときの拍子やテンポの基準にもなります(※p.16)。

### メトロノームを鳴らします

[METRONOME]スイッチを押すと、メトロノームがスタートします。

1



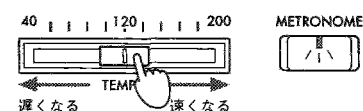
2

もう一度[METRONOME]スイッチを押すと、ストップします。

### テンポを調節します

[TEMPO]スライダーを動かしてテンポを調節します。

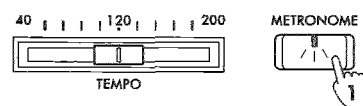
設定できる範囲は、♩ = 40~200です。



### 拍子を設定します

[METRONOME]スイッチを押してメトロノームをスタートさせます。

1

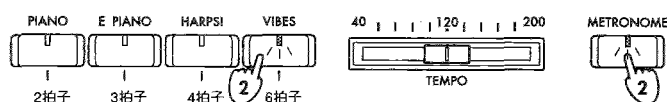


2

[METRONOME]スイッチを押しながら、設定する拍子に対応する[音色セクター]を押します。

押された[音色セクター]のランプが点灯して、選択された拍子の最初にアクセント音が入ります。

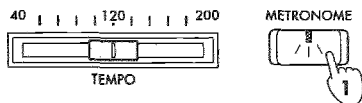
アクセント音を出さないようにするには、ランプの点灯している[音色セクター]を押してランプを消灯させます。



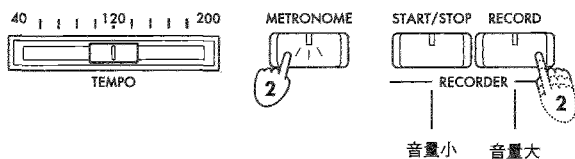
- 電源をオンにした直後は、拍子設定のない(アクセントのない)状態となります。

## 音量を調節します

[METRONOME]スイッチを押してメトロノームをスタートさせます。



[METRONOME]スイッチを押しながら[RECORD]スイッチを繰り返し押すと、音量が大きくなります。  
[METRONOME]スイッチを押しながら[START/STOP]スイッチを繰り返し押すと、音量が小さくなります。

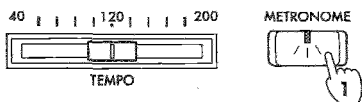


メトロノームの音量設定は、電源をオフにした後も記憶されます。

## アクセント音の選択

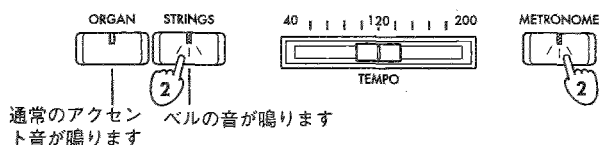
メトロノームのアクセント音をベルの音にすることができます。

[METRONOME]スイッチを押してメトロノームをスタートさせます。



[METRONOME]スイッチを押しながら[STRINGS]の[音色セクター]を押します。

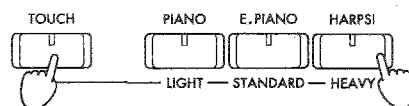
[STRINGS]のランプが点灯してベルの音が拍子の頭になります。[ORGAN]の[音色セクター]を押して[ORGAN]のランプを点灯させたときは、通常のアクセント音になります。



## 5. 鍵盤のタッチ感を変えます

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチコントロール機能といいます。

[TOUCH]スイッチを押しながら、[PIANO]、[E.PIANO]、[HARPSI]の[音色セクター]のうち、いずれかを押してタッチ感を選びます。



LIGHTまたはHEAVYを選んだときは、[TOUCH]スイッチのランプが点灯します。

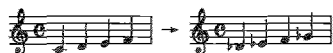
E.PIANO -STANDERD	<p>通常のピアノタッチです。 [TOUCH]スイッチを押している間、[E.PIANO]スイッチのランプが点灯します。</p>
PIANO-LIGHT	<p>弱く弾いても強音が出せるタッチです。(軽いタッチ) [TOUCH]スイッチを押している間、[PIANO]スイッチのランプが点灯します。</p>
HARPSI -HEAVY	<p>強く弾かないと強音が出せないタッチです。(重いタッチ) [TOUCH]スイッチを押している間、[HARPSI]スイッチのランプが点灯します。</p>

電源をオンにした直後は、自動的に“STANDARD”に設定されます。

## 6. 弾きやすく、歌いやすくします(移調)

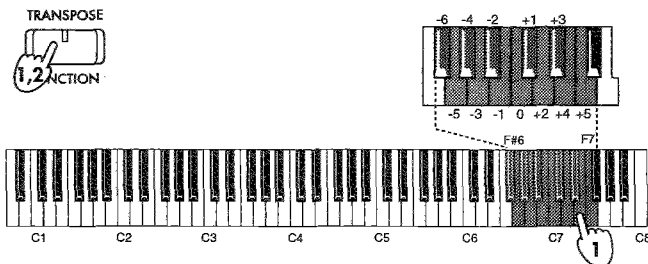
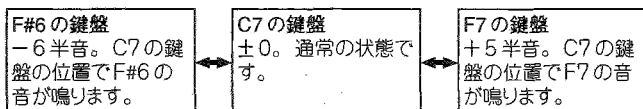
黒鍵を多く押さえるような弾きにくい曲や、他の楽器や歌に演奏とキー(調)が合わせられないときなどに、キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えたそのままの指使いで他の楽器や歌に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。11半音の範囲ですることができます。

たとえば1半音上げた場合、左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、F#6~F7のいずれかの鍵盤を押します。

C7以外の鍵を押えると[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチのランプが点灯して、トランスポーズされたことを示します。押えた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように鍵盤全体の音の高さが移調します。



トランスポーズの設定は、電源をオフにすると自動的に解除されます。

例: 曲の調子を半音上げて演奏するには  
C7の鍵を押さえたときにC#7の音が鳴るようにします。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながらC#7の鍵盤を押します。

例: キーがB♭の曲をGの指使いに直して演奏するには  
B♭の音は、Gの音から見て短3度の(3半音高い)音にあたります。したがって、C7の鍵盤を押したときにC7よりも3半音高いD#7の音が出るようにします。

[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながらD#7の鍵盤を押します。

## 7. 音の高さを微調整します

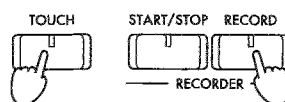
ピッチ(音高)の微調整を行ないます。他の楽器と合奏するときなどに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。±50セント(1セントは半音の100分の1)までずらすことができます。

変更したピッチは、電源をオフにしても記憶されます。

### ピッチを上げるには

[TOUCH]スイッチを押しながら[RECORD]スイッチを押します。

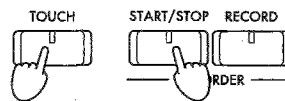
一回押すたびに約1セントずつピッチが高くなります。



### ピッチを下げるには

[TOUCH]スイッチを押しながら[START/STOP]スイッチを押します。

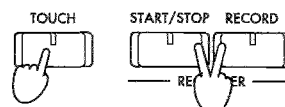
一回押すたびに約1セントずつピッチが低くなります。



### 変更したチューニングを元に戻すには

[TOUCH]スイッチを押しながら[RECORD]スイッチと[START/STOP]スイッチを同時に押します。

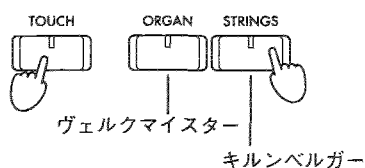
変更したチューニングが元(A4=440Hz)に戻ります。



## 8. 音律を選びます

クラシック音楽には古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するためにキルンベルガー(Kirnberger)とヴェルクマイスター(Werckmeister)という古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

[TOUCH]スイッチを押しながら[ORGAN]か[STRINGS]の[音色セレクト]を押して音律を選びます。



[TOUCH]スイッチを押しながら選択されている(ランプが点灯している)[音色セレクト]を押すと、平均律に戻ります。

ヴェルクマイスター	ドイツ人オルガニスト・音楽理論家のアンドリアスヴェルクマイスターによるヴェルクマイスターⅢスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。 [TOUCH]スイッチを押している間、[ORGAN]スイッチのランプが点灯します。
キルンベルガー	18世紀初めにヨハンフィリップキルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。これは主にハープシコードのチューニングに使用されます。 [TOUCH]スイッチを押している間、[STRINGS]スイッチのランプが点灯します。
平均律	現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。 [TOUCH]スイッチを押している間、[STRINGS]スイッチと[ORGAN]スイッチのランプは消灯しています。

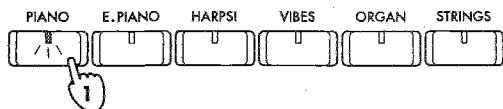
ここで設定された音律は、電源をオフにするまで変更されません。電源をオンにした直後は、自動的に平均律に選択されます。

[PIANO](ピアノ)の音色では、ストレッチチューニングを用いています。ストレッチチューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。

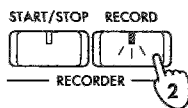
# 演奏を録音・再生してみましょう

## 1. 演奏を録音します

- 1 [音色セレクト]を押して録音する音色を選びます。



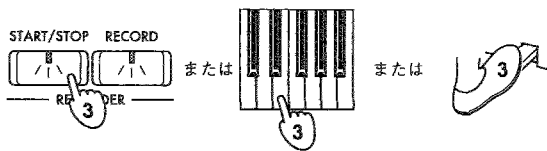
- 2 [RECORD]スイッチを押します。  
[RECORD]スイッチのランプが点灯し録音スタンバイ状態になります。



メトロノームのテンポに合わせて録音するときは、メトロノームを鳴らします(※p.12)。

- 3 [START/STOP]スイッチ、鍵盤、ペダルのいずれかを押すと録音が始まります。

[START/STOP]スイッチを押したときは、2小節のカウント後に録音が始まります。録音中は[START/STOP]スイッチのランプが点灯します。

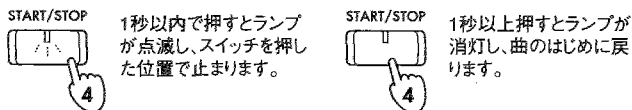


録音中の音色の切り替えも記録されます。ただし、録音前に(操作1で)選んだ音色は記録されませんので、再生するときに元の音色を選びなおしてください。

- 録音中は、絶対に電源をオフにしないでください。

- 4 [START/STOP]スイッチを押すと録音が終わります。

[START/STOP]スイッチを1秒以内で押すとスイッチを押した位置で停止し、ランプは点滅します。1秒以上押すと、曲の最初まで戻って停止し、ランプは消灯します。

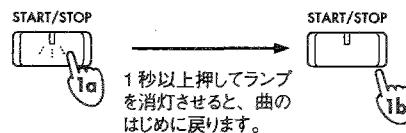


- 演奏データの録音は1曲分だけです。録音すると上書きされて以前の演奏データは消去されますのでご注意ください。

## 2. 録音した演奏を再生します

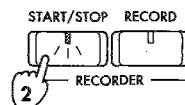
### 演奏を再生します

- 演奏の開始位置を確認します。  
演奏を最初から再生する場合は、[START/STOP]スイッチを1秒以上押してランプを消灯させてください。[START/STOP]スイッチのランプが点滅している場合は、曲の途中から演奏を開始します。



- 2 [START/STOP]スイッチを押すと、再生が始まります。

再生している間は、[START/STOP]スイッチのランプが点灯します。



- [TEMPO]スライダーで再生するテンポを変えることができます(※p.12)。曲のテンポを変えてもピッチ(音程)は変化しません。

- 3 [START/STOP]スイッチを押すと、演奏が停止します(このときの操作方法は「1. 演奏を録音します」操作4と同様です)。

また、録音したデータをすべて再生し終わると自動的に停止して、[START/STOP]スイッチのランプが点滅します。

- 再生している曲の途中で[START/STOP]スイッチを押して、一時停止した位置から録音に切り替えたときは、一時停止した位置から正しく録音が始まらないことがあります。

### 演奏を繰り返し再生します

録音した曲全体を繰り返し再生します。

再生中に[TRANSPPOSE/FUNCTION]スイッチを押します。

[TRANSPPOSE/FUNCTION]スイッチのランプが点滅して繰り返し再生します。

[START/STOP]スイッチを押して再生を停止します。このとき繰り返し再生も解除されます。

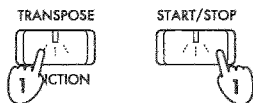


### 3. 演奏データを消去します

1

演奏の停止中に[TRANSPPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[START/STOP]スイッチを押します。

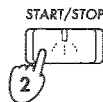
[TRANSPPOSE/FUNCTION]スイッチと[START/STOP]スイッチのランプが点滅し、演奏データ消去のスタンバイ状態になります。



再度[TRANSPPOSE/FUNCTION]スイッチを押すと演奏データ消去のスタンバイ状態から解除されます。

2

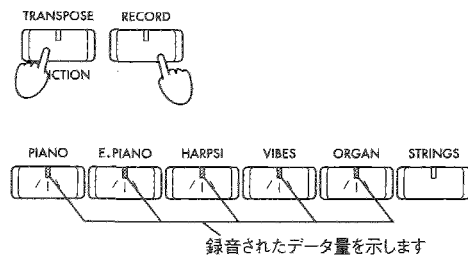
[START/STOP]スイッチを押すと演奏データが消去されます。



### 4. あとどれくらい録音できるか知りたいときは

[RECORD]スイッチと[TRANSPPOSE/FUNCTION]スイッチを押し続けます。

録音した演奏データ量を[音色セクター]のランプが点灯する数で表示します。録音した演奏データ量が増えるに従ってランプの点灯する数が増え、録音できる領域が少なくなったことを確認できます。



録音できる領域がメモリーの残り10パーセント以下(録音できる音数が400ノート未満になったときや、録音した小節が900小節[最大999小節録音可]を越えたとき)になると[RECORD]スイッチのランプが点滅します。残しておきたい演奏データは市販のデータファイラーを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします。(p.20)

# 1. オーディオ機器やシンセサイザーとの接続

## INPUT端子 (L/MONO・R)

シンセサイザーなど他の楽器やオーディオ機器のアウトプット端子と接続して、本機の内蔵スピーカーから音を出すための端子です。音量は接続した楽器やオーディオ機器のボリュームで調節してください。

## OUTPUT端子 (L/MONO・R)

オーディオ機器などのインプット端子と接続して、より大きな音を出したり、テープレコーダーなどに演奏を録音するときに使用する端子です。音量は本機の[MASTER VOLUME]スライダーで調節してください。

## MIDI端子 (IN・OUT)

シンセサイザー、シーケンサー、リズムマシンなどのMIDI機器と接続して、情報を交換するための端子です。次の『2. MIDI機器との接続』をご覧ください。

## PC(TO HOST)端子(C-350のみ)

パソコンを接続する端子です。詳しくは21ページを参照してください。

## PC/MIDI切替スイッチ(C-350のみ)

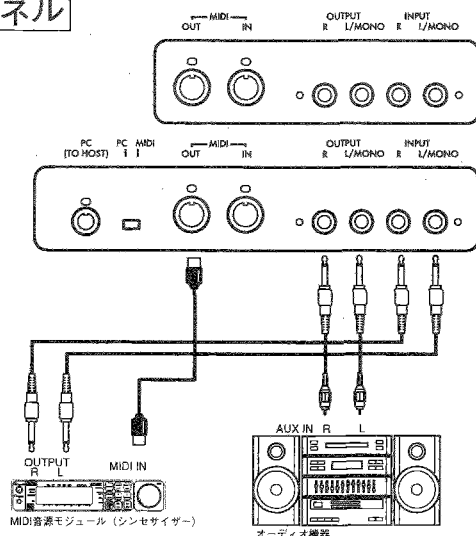
MIDI端子を使うか、PC(TO HOST)端子を使うかを切り替えるスイッチです。

- ▲ PC/MIDI切替スイッチは必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。
- ▲ PC端子とMIDI端子を両方同時に使用しないでください。また、必ずPC/MIDI切替スイッチで設定した端子を使用してください。両方の端子を使用したり、設定と異なる端子を使用した場合、C-350と接続されている機器が誤動作する恐れがあります。

## リアパネル

C-150

C-350



# 2. MIDI機器との接続

\* 他のMIDI機器を接続せずに本機単体でご使用になる方はこの項をお読みになる必要はありません。

## MIDI(ミディ)とは?

MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、電子楽器やコンピュータの間で演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

本機を演奏することによって、他のMIDIを備えた楽器を鳴らすことができます。このとき音色の切り替えやダンパーペダルなどの効果を一緒にコントロールすることができます。また他のMIDIキーボードやシーケンサー(自動演奏装置)から本機をコントロールして内蔵音源を鳴らすこともできます。複数のMIDI機器を組み合わせることによって、より多彩なアンサンブルを楽しむことができるでしょう。その他にも本機のレコーダーのデータを保管するときにもMIDIを使って行います。

ここでは本機に関連したMIDIの使用方法について説明します。さらにMIDIに興味のある方はMIDIについて、わかりやすく説明した本も数多く出版されていますのでご利用ください。

## MIDIの接続方法

MIDI情報をやり取りするには、専用のMIDIケーブルを使います。このケーブルを本機のMIDI端子と情報をやり取りする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あり、本体の後ろ側にあります。

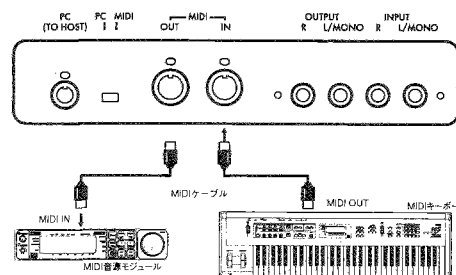
- ▲ (C-350のみ)PC/MIDI切替スイッチをMIDI側にしたときは、必ずMIDIケーブルでMIDI端子へ接続してください。
- ▲ (C-350のみ)PC/MIDI切替スイッチがPC側になっている場合は、いったんC-350の電源をオフにしてください。そしてPC/MIDI切替スイッチをMIDI側にして電源をオンにしてください。

## MIDI IN端子

MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

## MIDI OUT端子

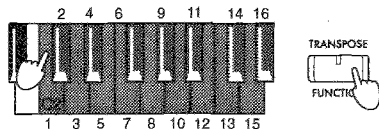
MIDI情報を送信します。本機を弾いたときなどに出力されるMIDI情報で外部MIDI機器をコントロールをすることができます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。



## MIDIチャンネル

MIDI機器との接続が終わったら、本機と接続するMIDI機器のMIDIチャンネルを同じ番号に設定します。MIDIチャンネルには1～16があります。

[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、設定したいMIDIチャンネルに対応したC2～D#3のいずれかの鍵を押します(※p.35)。



電源をオンにした直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。

## ローカルオン・オフの設定

本機の鍵盤を弾いたときに内蔵音源は鳴らさないでMIDIで接続している外部の音源だけを鳴らす場合や、シーケンサーを接続してシーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定したときに戻ってきた情報で二重に鳴るのを防ぐ場合に本機をローカルオフに設定します。通常はローカルオンに設定して鍵盤を弾いたときに本機の音が鳴るようにします。

[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[PIANO]の[音色セレクトター]を押します。

押すたびにオン/オフが切り替わります。

ローカルオン ... [PIANO]のランプ消灯

ローカルオフ ... [PIANO]のランプ点灯

電源をオンにした直後は、自動的にローカルオンに設定されています。

## プログラムチェンジ

接続しているMIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えたり、接続しているMIDI機器から本機のプログラム番号を切り替えます。

### プログラムチェンジの送信

接続している外部MIDI機器のプログラム番号を本機から切り替えます。

[音色セレクトター]で音色を選ぶと右上にある表のように0～20のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信します。

### プログラムチェンジの受信

外部からプログラムチェンジナンバーを受信すると、右上の表のように本機の音色が切り替わります。

本機は、0～20のMIDIプログラムチェンジナンバーを受信したときに音色が切り替わります。外部MIDI機器から21以上のMIDIプログラムチェンジナンバーを送信しても本機の音色は切り替わりません。

PC#: プログラムチェンジナンバー

モード	PC#	音色
シングル	0	PIANO
	1	E. PIANO
	2	HARPSI
	3	VIBES
	4	ORGAN
	5	STRINGS
レイヤー	6	PIANO+E.PIANO
	7	PIANO+HARPSI
	8	PIANO+VIBES
	9	PIANO+ORGAN
	10	PIANO+STRINGS
	11	E.PIANO+HARPSI
	12	E.PIANO+VIBES
	13	E.PIANO+ORGAN
	14	E.PIANO+STRINGS
	15	HARPSI+VIBES
	16	HARPSI+ORGAN
	17	HARPSI+STRINGS
	18	VIBES+ORGAN
	19	VIBES+STRINGS
	20	ORGAN+STRINGS

## プログラムチェンジキャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信しないときはプログラムチェンジをキャンセルに、送受信するときはイネーブルにします。

[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[E. PIANO]の[音色セレクトター]を押します。

押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

キャンセル ..... [E. PIANO]のランプ点灯

イネーブル ..... [E. PIANO]のランプ消灯

プログラムチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてプログラムチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのプログラムチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

## ■ コントロールチェンジ

本機のダンパーペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からダンパーペダルなどの情報を受信して本機をコントロールします。これを送受信するときはコントロールチェンジをイネーブルに、しないときはコントロールチェンジをキャンセルに設定します。

[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[HARPSI]の[音色セクター]を押します。

押すたびにキャンセル・イネーブルが切り替わります。

キャンセル ..... [HARPSI]のランプ点灯

イネーブル ..... [HARPSI]のランプ消灯

コントロールチェンジキャンセルは、MIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定ができます。例えば、MIDIチャンネルを1chにしてコントロールチェンジキャンセルを設定し、その後MIDIチャンネルを2chに替えた場合でも、1chのコントロールチェンジキャンセルの設定は記憶されています。

- ▲ 外部からのコントロールチェンジは、本機のペダルの設定の変更(※p.12「レイヤーにおけるペダルの設定」参照)に関係なくレイヤーモードにおいても、つねに両方の音色に対して有効となります。

- ▲ 電源をオンにした直後は、全MIDIチャンネルが自動的にイネーブルに設定されます。

## ■ 本機をマルチティンバー音源として使うには

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる4パートマルチティンバー音源として動作します。

- 1 本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。

- 2 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。MIDI受信チャンネルと本機の音色は次のように対応します。

接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

MIDI受信チャンネルは本機で設定しているMIDIチャンネルと、それに続く3つのチャンネルが対応します。例えば、本機のMIDIチャンネルが1の場合はMIDI受信チャンネル1は[音色セクター]で選ばれている音色、チャンネル2は[PIANO]、チャンネル3は[E. PIANO]、チャンネル4は[HARPSI]の音色が対応します。

MIDIチャンネルn ..... 点灯中の[音色セクター]

MIDIチャンネルn+1 ..... [PIANO]

MIDIチャンネルn+2 ..... [E.PIANO]

MIDIチャンネルn+3 .... [HARPSI]    n:本機のMIDIチャンネル

演奏データと一緒にプログラムチェンジメッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます(※p.19)。また、プログラムチェンジやコントロールチェンジのキャンセルはMIDIチャンネル1～16それぞれ独自に設定できます。

- ▲ 該当するMIDIチャンネルのプログラムチェンジがイネーブルになっているときに限ります。

- ▲ MIDIチャンネル1～16が対応します。例えば本機のMIDIチャンネルを15に設定した場合、チャンネル15は点灯中の[音色セクター]、チャンネル16は[PIANO]が対応し、その他は無視します。

## ■ 外部シーケンサーを同期させる

本機のレコーダーに合わせてMIDIで接続した外部シーケンサーやリズムマシンなどを同時に演奏(同期)させることができます。

本機は、マスター機(コントロールする機器)として働きますので、接続したシーケンサーなどはスレーブ機(コントロールされる機器)となります。

- 1 本機のMIDI OUTとシーケンサーなどのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。

- 2 接続したシーケンサーなどをスレーブ機として設定します。

接続するMIDI機器のMIDIクロックなどの設定はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

- 3 本機の[START/STOP]スイッチを押して同期演奏をさせます。

本機から出力されるMIDIクロック(テンポを合わせるための信号)は、[TEMPO]スライダーに従います。

## ■ レコーダーのデータを保存するには(データダンプ)

本機のレコーダーに録音した演奏データを、外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)に保存し、必要なときに本機レコーダーに読み込み再生することができます。

- ▲ データファイラーの取扱説明書をよくお読み、データを消してしまわないように十分注意してください。

## 演奏データをデータファイラーに保管します

- 1 本機のMIDI OUTとデータファイラーのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
  - 2 データファイラーを操作して本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
  - 3 本機の[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[STRINGS]の[音色セクター]を押します。  
[TRANPOSE/FUNCTION]、[STRINGS]のランプが点滅し、データダンプ送信待ちの状態になります。  
[START/STOP]スイッチを押します。
  - 4 データダンプが始まり、演奏データがデータファイラーに送信されます。送信している間、[START/STOP]スイッチのランプが点滅します。  
送信が終了すると、[START/STOP]スイッチのランプが消灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。
- ▲ ペダルの設定の変更の情報(※p.12「レイヤーにおけるペダル設定」)は、データファイラーに記録することはできません。
  - ▲ データダンプ送信待ちの状態やデータファイラーに演奏データを送信しているあいだは本機から音は出ません。データの送信が終了、データファイラーにデータが記録されると通常の演奏できる状態に戻ります。

## 演奏データをデータファイラーから本機のレコーダーに戻します

- 1 本機のMIDI INとデータファイラーのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
  - 2 本機の[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[STRINGS]の[音色セクター]を押します。  
[TRANPOSE/FUNCTION]、[STRINGS]のランプが点滅し、データダンプ受信待ちの状態になります。
  - 3 データファイラーを操作して、あらかじめ保管しておいた本機の演奏データを送信します(データの送信については、データファイラーの取扱説明書をご覧ください)。  
本機が演奏データを受信します。受信中には[RECORD]スイッチのランプが点滅します。  
演奏データの受信が終了すると、[RECORD]スイッチのランプが消灯し、データダンプ受信待ちの前の状態に戻ります。
- ▲ データファイラーから演奏データを受信している間は、本機から音は出ません。データの受信が終了、演奏データが本機のレコーダー内に元どおりに正しく納められると、通常の演奏できる状態に戻ります。

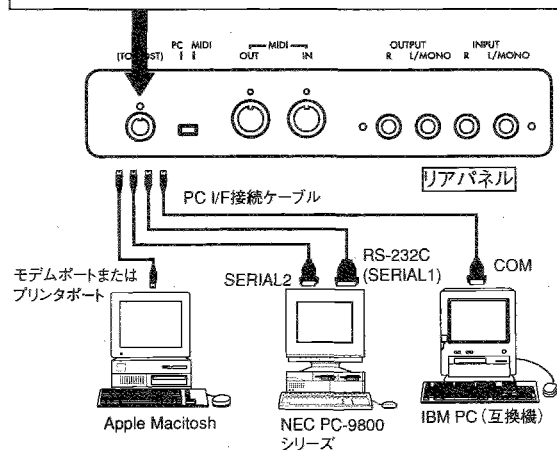
## 3. コンピュータとの接続(C-350のみ)

C-350は、コンピュータと専用のPC I/F接続ケーブルを接続することにより、コンピュータでC-350を鳴らしたり、C-350でのキーボード演奏をコンピュータに記録するなど前述のMIDIと同様に行えます。

C-350は、IBM PC互換機、Apple Macintosh、PC-9800シリーズのコンピュータと専用PC I/F接続ケーブルで接続することができます。コンピュータとPC (TO HOST) 端子で接続するときは、リアパネルのPC/MIDI切替スイッチをPC側にしてください。

- ▲ PC/MIDI切替スイッチは、必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。
- ▲ PC端子とMIDI端子を両方同時に使用しないでください。また、必ずPC/MIDI切替スイッチで設定した端子を使用してください。両方の端子を使用したり、設定と異なる端子を使用した場合、C-350と接続されている機器が誤動作する恐れがあります。
- ▲ PC/MIDI切替スイッチをPC側にしたときは、必ず専用PC I/F接続ケーブルでPC (TO HOST) 端子へ接続してください。

PC (TO HOST) 端子  
コンピュータから本機をコントロールしたり、本機からコンピュータへMIDI情報を送ることができます。  
本機のPC (TO HOST) 端子とコンピュータをそれぞれのコンピュータ用のPC I/F接続ケーブルで接続します。



## IBM PC互換機との接続

接続キットAG-001B(接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver") [別売]で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にC-350をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

**1** IBM PC互換機のシリアルポート(COMポート)とC-350のPC(TO HOST)端子を専用の接続ケーブル(AG-001B [別売])で接続します。

コンピュータのシリアルポートが25ピンの場合は9ピン-25ピン変換アダプターをご利用ください。

**2** [TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[VIBES]の[音色セクター]を押します。

同期周波数が38.4kbpsに設定されます。

**3** Windowsでお使いになる場合はKORG MIDI Driverをインストールします。

インストールの方法は24ページをご覧ください。

**4** C-350では、PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっているとき、[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[VIBES]または[ORGAN]の[音色セクター]を押しても同期周波数の設定はできません(常に31.25kbpsになります)。同期周波数の設定ができないときは、PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているかどうかを確認してください。

**4** C-350では、同期周波数を38.4kbpsに設定しても、いったんPC/MIDI切替スイッチをMIDI側にして、電源をオンにしてしまうと自動的に31.25kbpsに設定されます。PC/MIDI切替スイッチをPC側に戻したときは38.4kbpsに設定しなおしてください。

## Apple Macintoshシリーズとの接続

接続キットAG-002B(接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver") [別売]で接続します。

**1** Apple MacintoshのモデムポートあるいはプリンタポートとC-350のPC(TO HOST)端子を専用の接続ケーブル(AG-002B [別売])で接続します。

**2** [TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[ORGAN]の[音色セクター]を押します。

同期周波数が31.25kbpsに設定されます。

KORG MIDI Driverをお使いになる場合は27ページをご覧ください。

**4** C-350では、PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっているとき、[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[VIBES]または[ORGAN]の[音色セクター]を押しても同期周波数の設定はできません(常に31.25kbpsになります)。同期周波数の設定ができないときは、PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているかどうかを確認してください。

## NEC PC-9800シリーズとの接続

### RS-232C(SERIAL1)を利用する場合

接続キットAG-003B(接続ケーブル、ドライバー・ソフト"KORG MIDI Driver") [別売]で接続します。

ただし、コンピュータの機種、またはアプリケーション(シーケンサー)の種類によってはご使用になれませんので注意してください。

アプリケーション(シーケンサー)はRS-232C/MIDI変換アダプターの使用できるもの、またはWindowsに対応しているものにかぎります。

**1** NEC PC-9800シリーズのRS-232C(SERIAL1)端とC-350のPC(TO HOST)端子を専用の接続ケーブル(AG-003B [別売])で接続します。

**2** [TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[ORGAN]の[音色セクター]を押します。

同期周波数が31.25kbpsに設定されます。

**3** MS-DOS上のアプリケーション(シーケンサー)をお使いになる場合は、RS-232C/MIDI変換アダプターモードに設定します。  
また、Windowsでお使いになる場合はKORG MIDI Driverをインストールします。

インストールの方法は24ページをご覧ください。

**4** C-350では、PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっているとき、[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[VIBES]または[ORGAN]の[音色セクター]を押しても同期周波数の設定はできません(常に31.25kbpsになります)。同期周波数の設定ができないときは、PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているかどうかを確認してください。

## SERIAL2を利用する場合

接続キットAG-001B(接続ケーブル、ドライバー・ソフト  
"KORG MIDI Driver") [別売]で接続します。

ただし、Windowsに対応していないアプリケーションでは、特にC-350をサポートしている場合を除いて、この接続ではご利用になれません。

**1** NEC PC-9800シリーズのSERIAL2端子とC-350のPC (TO HOST) 端子を専用の接続ケーブル (AG-001B [別売]) で接続します。

**2** [TRANPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら [VIBES] の [音色セクター] を押します。

同期周波数が38.4kbpsに設定されます。

**3** Windowsでお使いになる場合はKORG MIDI Driverをインストールします。

インストールの方法は24ページをご覧ください。

⚠ C-350では、同期周波数を38.4kbpsに設定しても、いったんPC/MIDI切替スイッチをMIDI側にして、電源をオンにしてしまうと自動的に31.25kbpsに設定されます。PC/MIDI切替スイッチをPC側に戻したときは38.4kbpsに設定しなおしてください。

⚠ C-350では、PC/MIDI切替スイッチがMIDI側になっているとき、[TRANPOSE/FUNCTION] スイッチを押しながら [VIBES] または [ORGAN] の [音色セクター] を押しても同期周波数の設定はできません (常に31.25kbpsになります)。同期周波数の設定ができないときは、PC/MIDI切替スイッチがPC側になっているかどうかを確認してください。

# 1. KORG MIDI Driverのインストールとセットアップ

C-350とコンピューターを接続するためのオプション[別売]AG-001B、AG-002B、AG-003Bには、KORG MIDI Driverが付属されています。

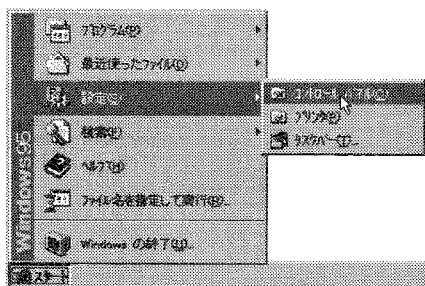
IBM PC(互換機)、NEC PC-9800シリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がWindowsに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(COM、RS-232C、Serial2)に接続したC-350をMIDIデバイスとして扱えるようになります。

また、Apple Macintoshシリーズでお使いになるアプリケーション(シーケンサー)がApple MIDI Managerに対応している場合にKORG MIDI Driverを使用しますと、シリアルポート(モデム、プリンタ)に接続したC-350とMacintoshとの間で相互に情報のやり取りが行えるようになります。

## ■ KORG MIDI DriverのWindows95へのインストール

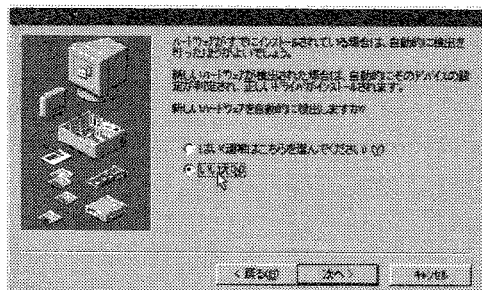
お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

1. タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[設定]の中の[コントロールパネル]をクリックします。

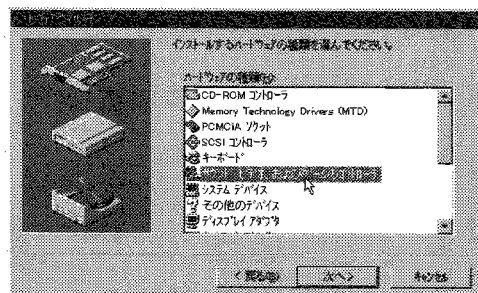


2. コントロールパネルの中の[ハードウェア]アイコンをダブルクリックすると、ハードウェアウィザードが起動するので[次へ>]ボタンをクリックします。

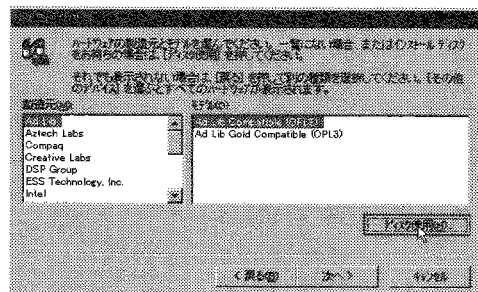
3. 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか?」という質問に対して、必ず[いいえ]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。



4. [サウンド、ビデオ、およびゲームのコントロール]を選び、[次へ>]ボタンをクリックします。



5. [ディスク使用]をクリックします。

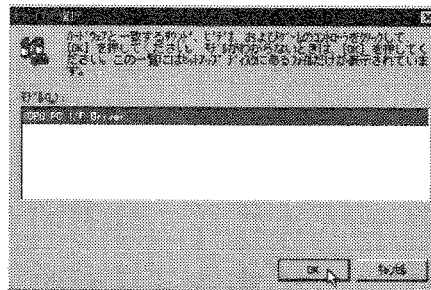


ドライブとディレクトリを指定するダイアログが表示されます。

6. AG-001B、AG-003Bの付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。Aドライブに入れた場合は“A: ¥” (Bドライブの場合は“B: ¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

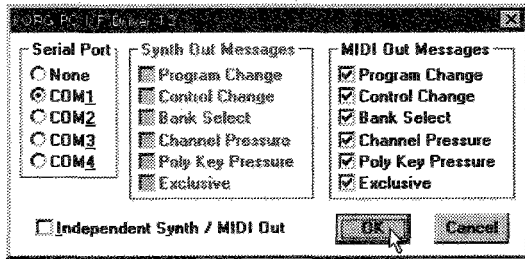
ただし、PC-9800シリーズでAG-001Bの付属ディスクをインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A: ¥PC98” (Bドライブの場合は“B: ¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

7. [OK]ボタンをクリックして、[完了]をクリックします。

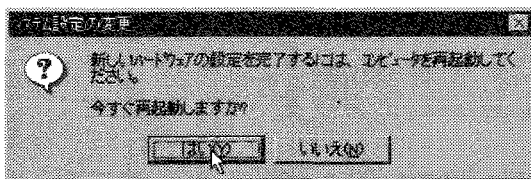




8. 「KORG MIDI Driver(Windows)のセットアップ」(26ページ)に従ってセットアップを行い、[OK]ボタンをクリックします。

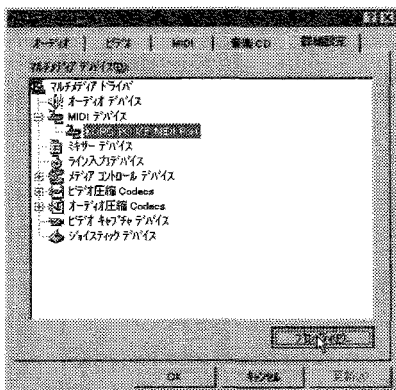


9. ドライバーを有効にするために必ず再起動させてください。



## ■ KORG MIDI DriverのWindows95のセットアップを変更する場合

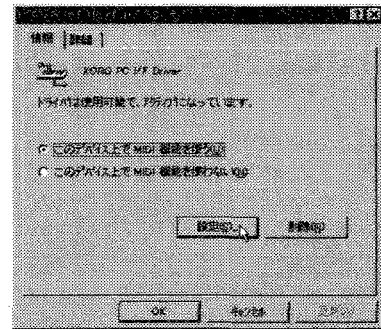
1. コントロールパネルの中の[マルチメディア]アイコンをダブルクリックすると、マルチメディアのプロパティダイアログが表示されます。



2. 右上の[詳細設定]タブをクリックします。  
3. [MIDIデバイス]の[+]をクリックして(表示が[-]に変わります)[KORG PC I/F MIDI Port]をクリックします。  
4. [プロパティ]ボタンをクリックします。

KORG PC I/F MIDI Portのプロパティが表示されます。

5. [設定]ボタンをクリックします。



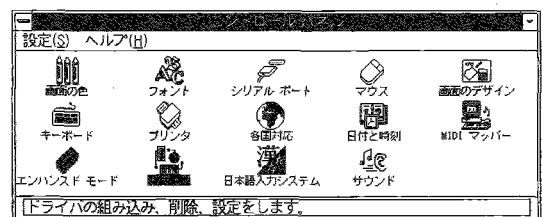
「KORG MIDI Driver(Windows)のセットアップ」(p.26)に従ってセットアップを行い、[OK]ボタンをクリックします。

設定を変更した場合にはWindowsを再起動させてください。

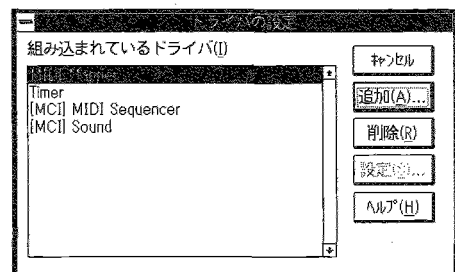
## ■ KORG MIDI DriverのWindows3.1へのインストール

- ▲ お使いのコンピュータの処理速度が十分に速くない場合、MIDI INデータを正しく受信できないことがあります。

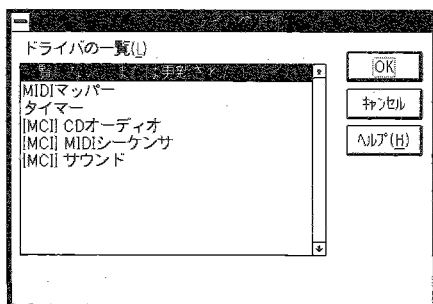
1. コントロールパネルの中のドライバアイコンをダブルクリックします。



2. [追加]ボタンをクリックします。

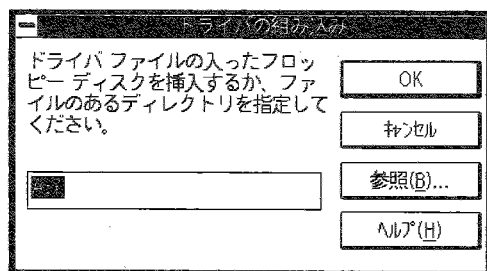


3. ドライバの一覧の中から[一覧にない、または更新されたドライバ]を選び、[OK]ボタンをクリックします。



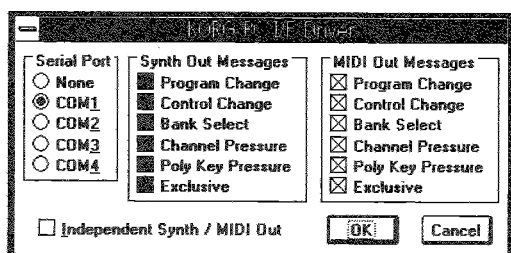
4. AG-001B、AG-003Bの付属ディスクをコンピュータのドライブに挿入します。

Aドライブに入れた場合は“A: ¥”(Bドライブの場合は“B: ¥”)と入力し、[OK]ボタンをクリックします。

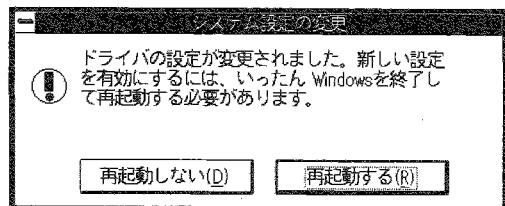


ただし、PC-9800シリーズでAG-001Bの付属ディスクからインストールする場合は、ディスクをAドライブに入れた場合は“A: ¥PC98”(Bドライブの場合は“B: ¥PC98”)と入力し、[OK]ボタンをクリックしてください。

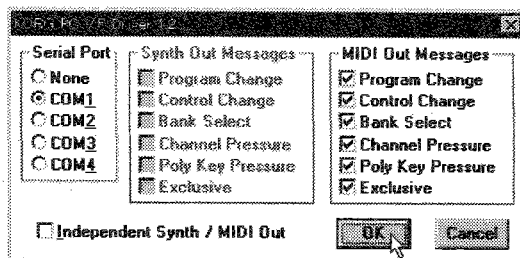
5. KORG PC/IF Driverを選び、[OK]ボタンをクリックすると、セットアップの画面になります。次の「KORG MIDI Driver(Windows)のセットアップ」に従って、セットアップを行ってください。



6. セットアップ後、ドライバを有効にするために、ディスクを取り出し、[再起動する]を選択します。



## ■ KORG MIDI Driver(Windows)のセットアップ



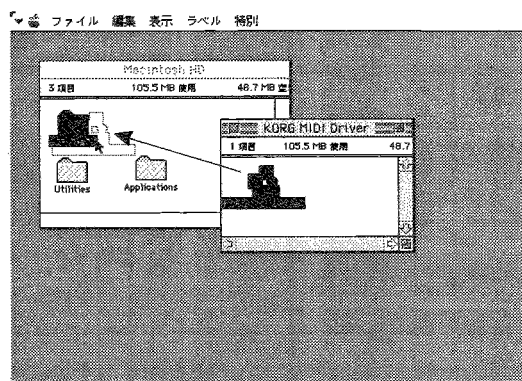
1. Serial PortではC-350を接続したシリアルポートを[COM1]～[COM4]の中から選びます。  
PC-9800シリーズではRS-232C(SERIAL1)に接続している場合は[COM1]に、SERIAL2に接続している場合は[COM2]を選んでください。  
  
KORG MIDI Driverを組み込んだ後に、シリアルポートを別の用途に使うときには、ドライバを削除(Delete)するか、または[None]を選んでドライバを無効にしてください。
2. C-350と接続したときは、[Independent Synth/MIDI Out]は使用しませんので、チェックしないでください。  
  
チェックすると誤動作の原因になります。
3. [MIDI Out Messages]ではC-350へ送るメッセージを選ぶことができます。
4. 選択が終わったら[OK]ボタンをクリックします。また、無効にしたい場合は[Cancel]をクリックします。

## ■ KORG MIDI DriverのMacintoshへのインストール

- ▲ KORG MIDI Driverを使用するには、あらかじめApple MIDI ManagerおよびPatchBayがインストールされている必要があります。Apple MIDI ManagerおよびPatchBayは、お使いのMIDIアプリケーションに付属されているものをお使いください。AG-002Bには付属されていません。

KORG MIDI Driverを使うと、Modem MIDI Out Port settingダイアログ(次項「KORG MIDI Driverのセットアップ」参照)でC-350に送るMIDIチャンネルと、メッセージの種類を設定することができます。そのような機能が必要ない場合は、KORG MIDI Driverを使わずに、Apple MIDI Driverをそのまま使用することができます。Apple MIDI Driverを使う場合や、Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は28ページをご覧ください。

1. AG-002Bの付属ディスク内の“KORG MIDI Driver”を起動ディスクのシステムフォルダにコピーします。



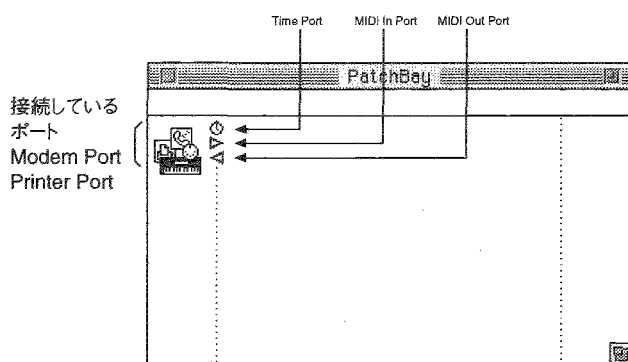
2. システムフォルダ内にApple MIDI Driverがあるときは削除するか、他のフォルダに移動してください。

Apple MIDI Managerは削除や移動を行わないように注意してください。

- ※ KORG MIDI DriverはApple MIDI Driverの機能を含んでいます。
3. 特別メニューから“再起動”を選択します。

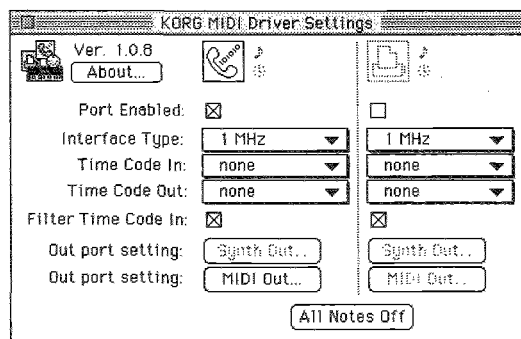
## ■ KORG MIDI Driver (Macintosh) のセットアップ

1. PatchBayを起動します。

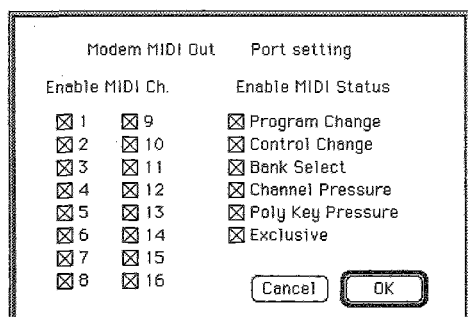


インストールが正しく行われた後、PatchBayを起動すると図のようにPatchBayウィンドウ内にKORG MIDI Driverのアイコンが表示されます。(Modem/Printerの各ポートはセットアップの状態により表示が異なる場合があります。)

2. PatchBayの中のKORG MIDI Driverのアイコンをダブルクリックします。セットアップダイアログが表示されます。



3. C-350を接続しているポートのPort Enabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定します。  
(C-350には、KORG PC IFが内蔵されていないので[KORG PCIF]は選択しないでください。)
4. [Out Port Setting]ボタンを押します。  
次のダイアログが現れます。  
ここで各ポートへ出力されるMIDIチャンネル・メッセージを選択することができます。  
チェックされているチャンネル・メッセージのみ出力します。



5. 設定後、[OK]ボタンを押します。
6. MIDIアプリケーション(シーケンサー)を起動して、MIDIアプリケーションのOut Portの◀からマウスをドラッグしてMIDI DriverのMIDI Outに接続します。

PatchBayの使用方法については、Appleメニューの“About PatchBay...”等の説明をご覧ください。

Apple MIDI Driverを使う場合は、(KORG MIDI Driverがシステムフォルダ内にあるときは、削除または移動した後) PatchBayを起動し、その中のApple MIDI Driverのアイコンをダブルクリックして、C-350を接続したPortのEnabledをチェックし、Interface Typeを[1MHz]に設定して、ダイアログを閉じます。

PatchBay上で、MIDIアプリケーション(シーケンサー)のOutPortの◀からマウスをドラッグして、MIDI Outに接続します。

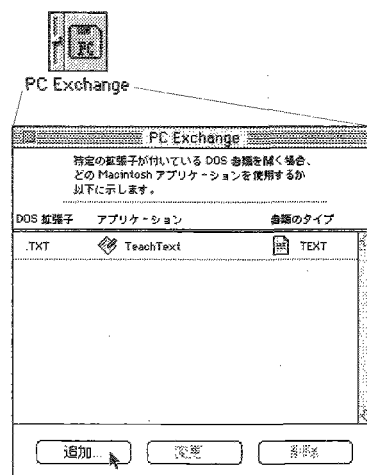
Apple MIDI Managerを使用しないMIDIアプリケーション(シーケンサー)を使う場合は、C-350が接続されているPortを選択し、クロックの設定を[1MHz]に設定してください。

## ■ PC ExchangeによるSMFの変換方法

市販のスタンダードMIDIファイル(SMF)のソングファイルのほとんどが、MS-DOSフォーマットで保存されています。PC Exchangeを使用すると、MS-DOSフォーマットのSMFソングファイルをMacintoshで認識できるようになります。

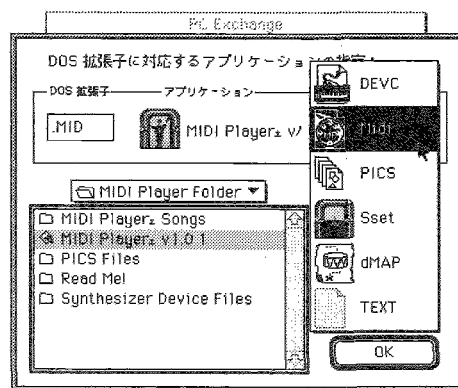
1. コントロールパネル内のPC Exchangeを開きます。

PC Exchangeのコントロールパネルが現れます。



2. [追加...]ボタンを押します。

[DOS拡張子に対応するアプリケーションの指定]ウィンドウが現れます。



3. DOS拡張子項目に“MID”と入力します。

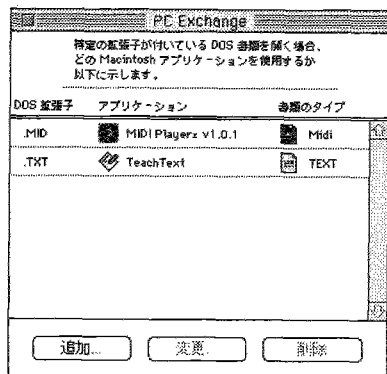
MS-DOSでは、ファイルの種類を分類するために拡張子というピリオドの後に続く3文字を、ファイル名の後に付けます。

SMFには、“.MID”という拡張子をつけるのが一般的です。

4. ダイアログの下半分に表示されている一覧から、

お持ちのSMFを扱えるMIDIアプリケーション  
(シーケンサー)を選びます。

アプリケーション項目に選択したアイコンが現れます。



- 5 [書類のタイプ]ポップアップメニューから[Midi]  
を選び、[OK]ボタンをクリックします。

PC Exchangeウィンドウに追加された項目が表示され、登録されます。

MS-DOSのSMFをディスクドライブに挿入すると、そのまま使用することができます。

\* 詳しくはMacintosh PC Exchangeの解説をご覧ください。

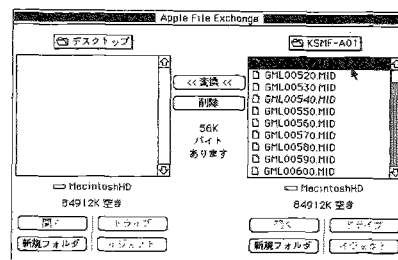
## ■ AG-002付属のMIDI File Translatorについて

お使いのMacintoshのシステムにPC Exchangeではなく、Apple File Exchangeが付属されている場合は、AG-002Bに含まれているMIDI File Translatorを使って変換することができます。

1. MIDI File TranslatorをApple File Exchangeと同じフォルダに入れます。



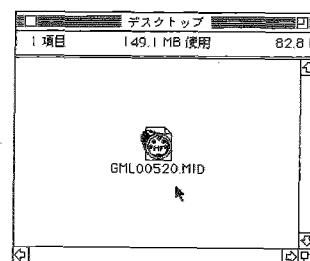
2. Apple File Exchangeをダブルクリックして、起動します。  
3. 変換したいMS-DOSディスクをドライブに挿入します。



上のような画面が現れます(画面上はKORG SMFライブラリKSMF-A01です)。

MS-DOSフォーマットのディスクは必ずApple File Exchangeを起動させてから、ディスクドライブに入れてください。

4. 変換したいソング(曲)ファイルを選びます。



5. 中央の「<<変換<<」(又は「>>変換>>」)ボタンを押します。

変換が始まります。棒グラフが100%までいくと、変換が完了します。左側のボックスに変換されたファイルが現れます。

6. Apple File Exchangeを終了します。

## 2. スタンドの組み立て方

ST-350、ST-150のちがいは、ペダルの本数のみです。  
組み立て図はST-350の図を使用していますが、ST-150も  
同様に組み立てることが可能ですので、こちらを参照してく  
ださい。



### 注意

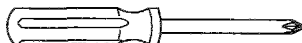
本体組み付けは二人以上で行ってください。  
本体をスタンドに乗せるときに、手をはさまないように、  
注意してください。

部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順  
どおりに組み立ててください。

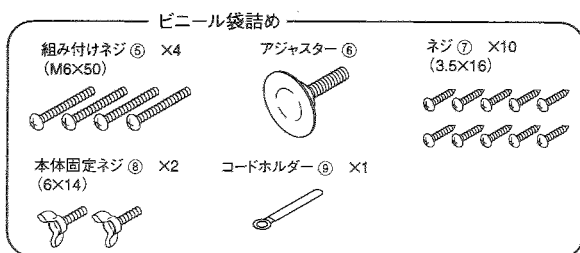
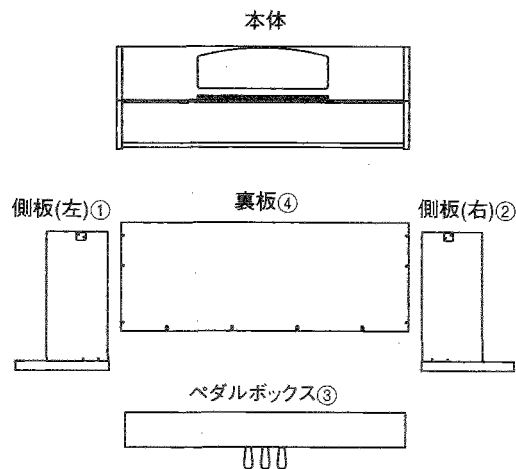
本体をネジで固定する前に、本体前側に力を掛けすぎ  
ると、本体が落下することがありますので注意してくだ  
さい。



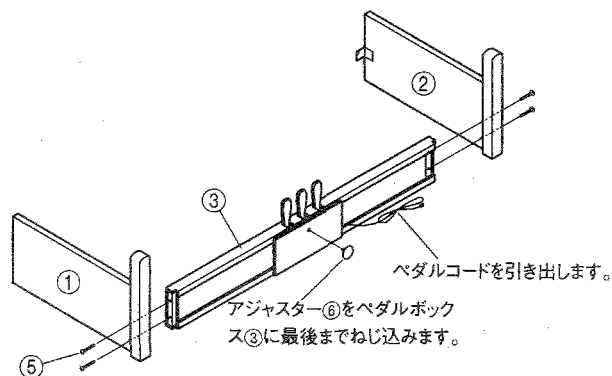
- ① お手持ちの+（プラス）ドライバーを用意します。



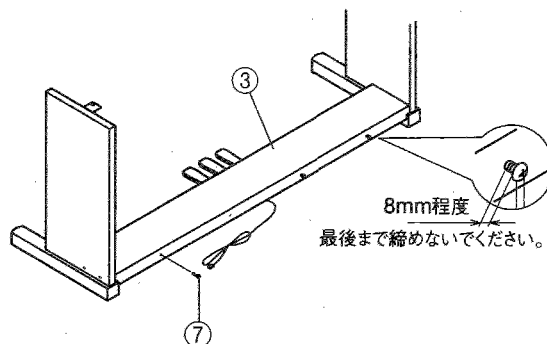
- ② 箱をあけて部品を取り出します。  
下記部品が揃っているのを確認してください。



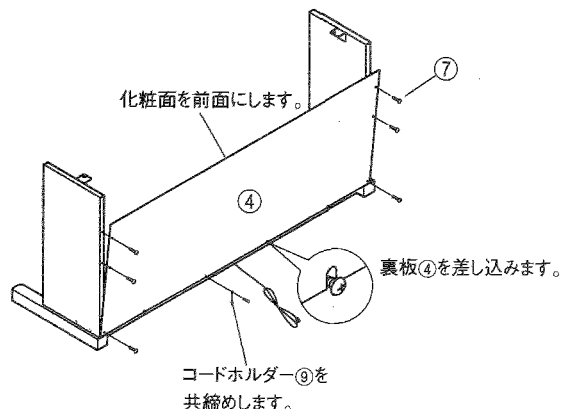
- ③ 下の図のようにスタンドの背面側を必ず平らな床など  
に置いて組み立ててください。  
側板(左)①と側板(右)②をペダルボックス③に組み付  
けネジ⑤④本で組み付けます。



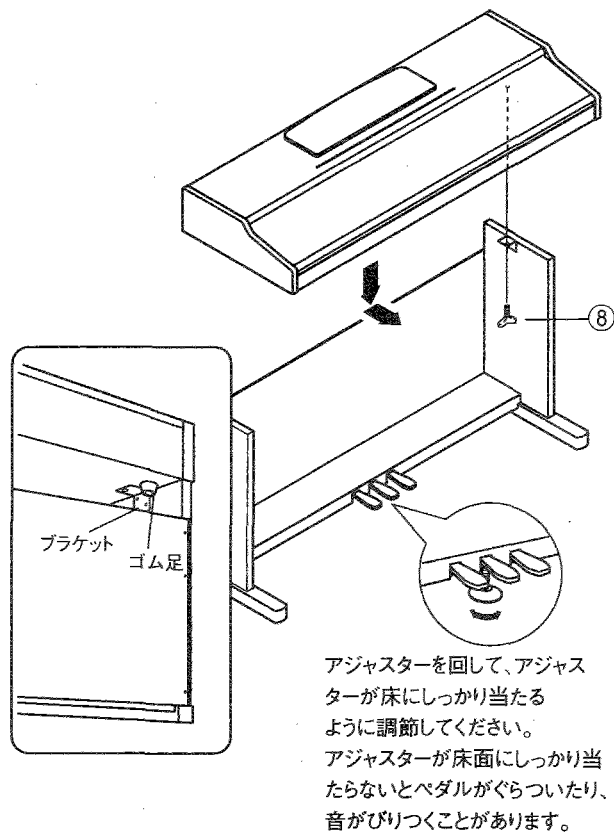
- ④ ネジ⑦3本をペダルボックス③に仮締めします。



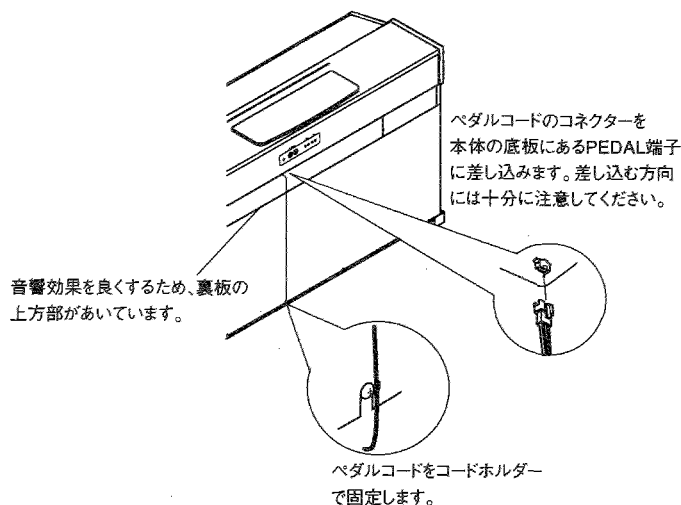
- ⑤ 裏板④を組み付けます。  
仮締めしたネジ⑦に裏板④を差し込みます。ネジ⑦6本  
で側板の下穴に合わせて裏板④を固定します。  
仮締めのネジ⑦3本を最後まで締めます。  
ペダルボックス③へネジ⑦でコードホルダー⑨を固定  
します。



- 本体を組み付けます。  
 本体をスタンドの後ろ側から乗せます。本体を軽く持ち上げ、側板のブラケットに本体底面のゴム足があたるまで前側に動かします。  
 本体固定ネジ⑧2本で下方から固定します。



- ペダルコードを接続、固定します。



### 組立後のチェック

- ☐ 部品は余っていませんか？  
 余っている場合は図中の使用先の位置を確認してください。
- ☐ 取付ネジのゆるみを確認してください。



### 注意

#### 移動時の注意

ピアノ本体からスタンドを取り外して、別々に移動してください。移動後「本紙」に従い、組み付け直してください。また移動時は次のことに注意してください。

- ・ 電源コードは短く束ねてください。長い場合、コードを引っ掛けたりして、断線、ショートや破損の原因になります。
- ・ ペダルコードをドアのノブなどに引っ掛けないように注意してください。

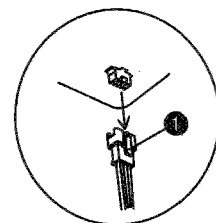
#### ネジの緩みについて

組み付け後、長い時間が経つとスタンド各部のネジの締め付けが緩み、スタンドの揺れがはげしくなる場合があります。このようなときは各ネジを締め直してください。

#### 分解について

分解するときは、スタンドの組み立て方の逆の順番で行ってください。分解後は、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。

ペダルコードは、コンネクターのつまみ(●)を押しながら外してください。無理にコードを引き抜くと壊れます。



## 3. MIDIインプリメンテーションチャート

[デジタルピアノ]

C-350/150

## MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション...		送信	受信	備考		
ベーシック チャンネル:	電源ON時	1				
	設定可能	1-16	1-16			
モード	電源ON時	×	3			
	メッセージ	×	×			
	代用	*****				
ノート ナンバー:		15-113	0-127			
	音域	*****	21-108			
ベロシティ:	ノート・オン	1-127	1-127			
	ノート・オフ	×	×			
アフタータッチ:	キー別	×	×			
	チャンネル別	×	×			
ピッチ・ベンダー		×	×			
コントロール チェンジ						
		64	○	○	ダンパーペダル	*1
		66	○	○	ソステヌートペダル	*1
		67	○	○	ソフトペダル	*1
プログラム チェンジ:		0-20	0-20	*2		
設定可能範囲		*****	0-20			
エクスクルーシブ		○	○	Device Inquiry Sequence Data Dump		
コモン:	ソング・ポジション	×	×			
	ソング・セレクト	×	×			
	チューン	×	×			
リアルタイム:	クロック	○	×			
	コマンド	○	×			
その他:	ローカル・オン/オフ	×	○			
	オール・ノート・オフ	○	○123-127			
	アクティブセンシング	○	○			
	リセット	×	×			
備考						
*1 コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。						
*2 プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。						



## 4. 故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、次の事項を確認してください。それでも症状が改善されないときには、お近くの販売店またはコルグサービスセンターまでお問い合わせください。

### 電源が入らない

- ・電源コードを適切なコンセントに差し込んでいますか？ ..... **p.8**
- ・電源スイッチがオンになっていますか？ ..... **p.8**

### スピーカーから音が出ない

- ・[MASTER VOLUME]スライダーが上がっていますか？ ..... **p.8**
- ・ヘッドホンのプラグが差し込まれていませんか？ ..... **p.8**
- ・MIDIローカルオフになっていませんか？ ..... **p.19**

### 音が途切れてしまう

- ・本機の音色は、元になる楽器の音をサンプリング(録音)し、分析/加工してつくられています。音色によって1つの鍵盤を押すと、サンプリングデータの1つを鳴らす音色と2つを鳴らす音色があります。
- 本機では、[PIANO]の音色が2つのデータを鳴らします。この音色を選ぶと、ダンパーペダルを踏んでいるときも含め同時に発音させることができる音数は16音となります。それ以外の音色では、最大同時発音数は32音となります。また、レイヤーにして同時に2つの音色を鳴らすときもサンプリングデータを1つ使っているか、2つ使っているかで最大同時発音数は異なってきます。
- たとえば、[PIANO]の音色と他の音色を組み合わせると最大同時発音数は、10音になります。

### 特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- ・ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。

### ペダルの効果がかからない

- ・ペダルコードがはずれていませんか？ ..... **p.31**

### ソフトまたはソステヌート効果がかからない

- ・ペダルコードがはずれていませんか？ ..... **p.31**
- ・C-150の場合ペダルの設定を確認してください ..... **p.12**

### 録音できない

- ・レコーダーの空き領域は十分にありますか？ ..... **p.17**

### 接続したMIDI機器から送信したMIDIデータに回答しない

- ・MIDIケーブルやPC専用接続ケーブルがすべて正しく接続されているされていることを確認してください。
- ・MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。 ..... **p.19**

## 5. 仕様

- 鍵盤 ..... 88鍵(A0~C8)
- 音色 ..... 6音色: ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、パイプ、オルガン、ストリングス
- 最大同時発音数 ..... 32音
- 効果(C-350のみ) .. リバーブ(3段階)、コーラス(3段階)、ブリリアンス(3段階)
- レコーダー ..... 最大4,000ノート  
テンポ、メトロノーム、レコード、スタート/ストップ/リピート
- キーボードモード ..... シングル、レイヤー
- コントロール ..... パワースイッチ、マスターボリュームスライダー、キートランスポーズ/ファンクションスイッチ、タッチスイッチ、音色セレクト、テンポスライダー、メトロノームスイッチ、デモスイッチ、PC/MIDI切替スイッチ(C-350のみ)
- ペダル ..... C-350: ダンパー、ソフト、ソステヌート  
C-150: ダンパー、ソフト/ソステヌート
- 接続端子 ..... PHONES×2、INPUT(L/MONO・R)、OUTPUT(L/MONO・R)、MIDI(IN・OUT)、PEDAL  
C-350のみPC(To HOST)
- メインアンプ ..... 20W×2
- スピーカー ..... 16cm×2
- 定格電源 ..... AC100V 50Hz/60Hz
- 消費電力 ..... 43W
- 外形寸法 ..... C-350: 1379(W)×445(D)×849(H)mm  
C-150: 1359(W)×443(D)×804(H)mm
- 重量(スタンド含) .... C-350: 45.6kg、C-150: 39.7kg
- 付属品 ..... C-350: ヘッドホン、椅子  
C-150: \_\_\_\_\_
- オプション ..... AG001B、AG-002B、AG-003B接続キット(C-350のみに対応)

※ 仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

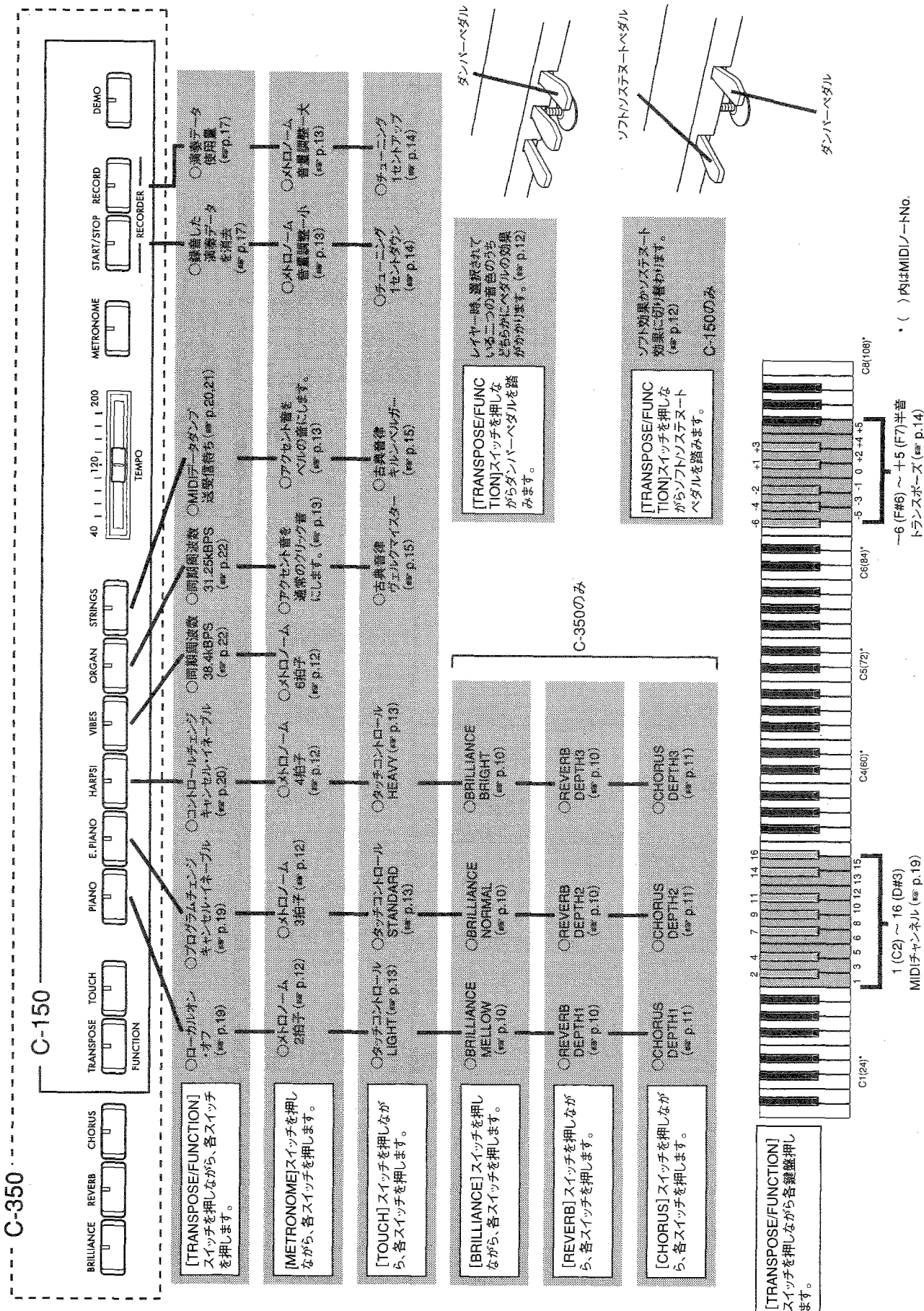
- ・ Apple MacintoshおよびMIDI Manager, MIDI Driver, PatchBayは、米国アップルコンピュータ社の登録商標および商標です。
- ・ IBMは米国IBM社の商標です。
- ・ MS-DOSおよびWindowsは米国マイクロソフト社の登録商標および商標です。
- ・ PC-9800シリーズは日本電気株式会社の商標です。

## 6.索引

<b>ア</b>		
アクセント音 .....	13	
<b>オ</b>		
音の明るさ .....	10	
オーディオ機器 .....	18	
音律 .....	15	
音量 .....	8	
<b>コ</b>		
コーラス効果 .....	11	
コンピュータ .....	21	
コントロールチェンジ .....	20	
<b>サ</b>		
再生 .....	16	
<b>シ</b>		
シングルモード .....	10	
<b>ス</b>		
ストレッチチューニング .....	15	
<b>セ</b>		
接続		
オーディオ機器 .....	18	
コンピューター .....	18	
MIDI機器 .....	18	
セント .....	14	
<b>ソ</b>		
ソステヌートペダル .....	11	
ソフト/ソステヌートペダル .....	11	
ソフトペダル .....	11	
<b>タ</b>		
タッチコントロール機能 .....	13	
ダンパーペダル .....	11	
<b>テ</b>		
データダンブ .....	20	
データファイラー .....	20	
デモ演奏 .....	9	
テンポ .....	12	
<b>ト</b>		
同期 .....	20	
同期周波数		
IBM PC(互換機) .....	22	
Macintosh .....	22	
PC-9800シリーズ .....	22	
トランスポート機能 .....	14	
<b>ハ</b>		
バックアップバッテリー .....	3	
<b>ヒ</b>		
ピッチ(音程) .....	14	
拍子 .....	12	
<b>フ</b>		
プログラムチェンジ .....	19	
<b>ヘ</b>		
ペダルコード .....	2,31	
<b>マ</b>		
マルチティンバー音源 .....	20	
<b>メ</b>		
メトロノーム .....	12	
アクセント音 .....	13	
音量 .....	13	
テンポ .....	12	
拍子 .....	12	
<b>リ</b>		
リバーブ効果 .....	10	
<b>レ</b>		
レイヤーモード .....	10	
<b>ロ</b>		
ローカルオン・オフ .....	19	
録音 .....	16	
演奏データ量 .....	17	
<b>I</b>		
INPUT端子 .....	18	
IBM PC(互換機) .....	24	
<b>K</b>		
KORG MIDI Driver .....	24	
Macintosh .....	27	
Windows95 .....	24	
Windows3.1 .....	25	
<b>M</b>		
MIDI .....	18	
MIDI機器 .....	18	
MIDIチャンネル .....	19	
<b>O</b>		
OUTPUT端子 .....	18	
<b>P</b>		
PC(TO HOST)端子 .....	18	
PC/MIDI切替スイッチ .....	18	

C-350

## 7. スイッチの機能



## アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

1. 消耗部品（電池など）を交換する場合。
2. 輸送および移動時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
3. 天災（火災等）によって生じた故障。
4. 故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
5. コルグ・サービスステーションおよびコルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
6. 保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
7. 保証期間が切れている場合。
8. 日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3ヵ月以内に限り無償修理いたします。また仕様変更に関しては有償になりますのでご了承ください。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグ・インフォメーションまでお問い合わせください。

■保証期間が切れますと修理は有償になりますが、引き続き製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年間を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は、類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■その他、アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825 名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072 大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5 番館 7F	☎(06) 374-0691
福岡営業所	〒810-0012 福岡市中央区白金 1-3-25 第2 池田ビル 1F	☎(092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒143-0001 東京都太田区東海 5-4-1 明正大井 5 号営業所 コルグ物流センター内 ☎(03)3799-9085

#### <WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。）